

法政大學講義録

若槻, 禮次郎 / 山脇, 貞夫 / 横田, 五郎 / 吾孫子, 勝 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

14

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1904-05-03



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
（毎月十四日三頁五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿六日發行）

明治三十七年五月三日發行

特別法ノ十四

法政大學講義録

第六拾五號



法政大學發行

特別法第十四號目次

市制町村制(自四八)

法學士 松浦鎮次郎

現行租稅法論(自三三)

法學士 若槻禮次郎

競賣法(自七七)

法學士 吾孫子勝

非訟事件手續法(自二五)

法學士 横田五郎

公證人規則(自一八)

法學士 山脇貞夫

雜報

○町村學校組合長ト組合財産ノ管理○營業割ト雜種稅割○特許權ノ公示ト特許公法○五大學聯合懸賞大討論會

090
1903
5-14

ヲ議員トナルモノナリ選舉人ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ市町村會ニ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ市町村長ニ申出フルコトヲ要ス又市長ハ選舉ヲ終リタル後其結果ヲ府縣知事ニ町村長ハ選舉ヲ終リタル後其結果ヲ郡長ニ報告スヘキモノニシテ府縣知事若ハ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會若ハ郡參事會ノ裁決ニ付スルコトヲ得選舉ノ效力ニ關スル市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其町村會ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得而シテ府縣知事若ハ郡ニ於テ選舉ノ效力ニ異議アルカ爲メ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會若ハ郡參事會ノ裁決ニ付シタル場合ニ關係者ニ於テ其裁決ニ不服アルトキハ之ニ對シテ前述ノ徑路ニ由リ行政訴訟若ハ訴願ヲ提起シ得ルヤ否ヤニ關シテハ市制町村制ノ規定ハ稍不明ナルヲ免レスト雖モ法ノ精神ハ之ヲ許スニ在リト推測スルヲ穩當トス尙ホ選舉ノ效力ニ關スルコトニ付テハ市長町村長ヨリモ亦訴願及行政訴訟ヲ

提起スルコトヲ得審理ノ結果選舉其モノカ定規ニ違背セル場合ニハ選舉全部ヲ取消シ單ニ或被選舉人カ無資格ナルニ止マル場合ニハ其人ノ當選ノミヲ取消スヘキモノトス選舉カ定規ニ違背シタルヤ否ヤトイフコトハ單純ナル法ノ解釋問題ニシテ其違背ノ程度如何從テ其事實カ果シテ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホスモノナルヤ否ヤノ如キハ固ヨリ問フ所ニ非ス然レトモ些細ナル定規違背アルカ爲メ其選舉全部ヲ無効トスルカ如キハ公益上大ニ考フヘキ所ナルカ故ニ行政裁判所ノ如キモ定規違背トイフコトノ解釋ヲ寬大ニシ唯選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホスヘキ場合ノミヲ意味スルコトニ解セルモノノ如シ名簿ノ正否及選舉ノ效力ニ關シテハ訴訟及行政訴訟ノ提起ハ事件ノ執行ヲ停止セサルヲ本則トス故ニ例ヘハ市會議員ノ選舉ノ效力ニ關シ府縣參事會ニ訴願シタル者アリテ府縣參事會ニ於テ選舉無効ノ裁決ヲ與ヘタル場合ニ於テハ其裁決ヲ不服トシテ行政訴訟ヲ提起スル者アルモ裁決ノ執行ハ之カ爲メニ停止セラレサルカ故ニ更ニ選舉ヲ行ハサルヘカラス然ルニ行政裁判所ニ於テハ府縣參事會ノ裁決ヲ取消シ最前ノ選舉ヲ有效ナリト判決シタルトキハ二重ノ議員ヲ生ゼテ

奈何トモスヘカラサルニ至ルカ故ニ法ハ特ニ更ニ選舉ヲ行ハントスルニハ確定ノ判決又ハ裁決ヲ待タサルヘカラサルコトヲ規定セリ尙ホ選舉ニ依リ一旦當選者ノ定マリタル後ニ於テ其者カ初メヨリ無資格ナリシコトカ發見セラレ又ハ當選後ニ至リ資格ノ要件ヲ失ヒタルトキハ其人ノ當選ハ當然其效力ヲ失フモノトス而シテ資格ノ要件ヲ失ヒタルヤ否ヤハ市町村會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス故ニ例ヘハ市町村會議員ニシテ公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ公民權ヲ停止セラレ從テ議員タルノ資格ヲ失フヘキモノナレトモ然モ唯如斯キ公判ニ付セラレタル事實アルノミニテ當然議員タル地位ヲ失フモノニ非スシテ市町村會ニ於テ右ノ事實ヲ認メ其人カ議員タル資格要件ヲ失ヒタルコトヲ決議スルニ及ヒテ初メテ議員タル地位ヲ失フニ至ルモノナリ即チ或人カ議員タル資格要件ヲ失ヒタルヤ否ヤノ決定權ハ全ク市町村會ニ在テ存スルナリ從テ極端ニ之ヲ論スレハ實際公判ニ付セラレタル議員アルモ市町村會ニ於テ無法ニ其事實ヲ否認スルトキハ其議員ハ依然トシテ其地位ヲ保持得ルモノナリトイハサルヘカラス

市町村會議員ハ名譽職ニシテ其任期ハ六年トシ三年毎ニ各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシムヘキモノトシ初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス但退任シタル議員ハ再選セララルコトヲ妨ケス如斯ク三年毎ニ半數改選ヲナシシムル趣旨ハ一ハ成ルヘク新空氣ヲ議會ニ注入セシメントスルト一ハ成ルヘク多クノ公民ヲシテ偏頗ナク名譽職ニ就職シテ公務ニ慣ルルノ機會ヲ得シメントスルニ在ルナリ議員中死亡者若ハ退職者アリテ關員ヲ生シタルトキハ補闕選舉ハ其都度之ヲ行ハス毎三年定期改選ノ時ヲ待テ同時ニ之ヲ行フヲ本則トス但定員三分一以上關員アルトキ及市會ニ在テハ市會市參事會若ハ府縣知事ニ於テ町村會ニ在テハ町村會町村長若ハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ニ補闕選舉ヲ行フコトヲ得定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之ヲ行フヘキモノトス補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトシ若同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕トナシ投票數相同シキトキ

ハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム又一人ニシテ定期改選ト補闕選舉トニ同時ニ當選シタル場合ニハ法ノ精神ハ其者ヲシテ競レノ選舉ニ應スヘキヤヲ選擇セシムルニ在ルカ如シ

市町村會議員ハ給料ヲ受クルコトナキハ勿論ナリト雖モ職務ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ノ如キハ之ヲ受クルヲ正當トス然ルニ法ハ此點ニ付テ何等ノ規定ヲ設ケス彼ノ名譽職員ハ別ニ規定アル場合ヲ除ク外職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得トイヘル規定ハ之ヲ嚴正ニ論スルトキハ行政裁判所ノ意見ノ如ク市參事會町村長以下ノ行政機關ニノミ適用スヘキモノニシテ內務當局者ノ解釋ノ如ク市町村會議員ニ對シテマテモ適用スヘキモノニ非サルカ如シ然レトモ法カ市町村會議員ノ實費辨償ニ付テ何等ノ規定ヲ設ケサルハ全ク法ノ不備ニ歸スヘキモノナルカ故ニ內務當局者ノ解釋モ實際ニ於テハ止ムヲ得サルモノナルヘシ

市町村會ハ市町村ノ意思ヲ決定スル機關アルカ故ニ別段ノ規定アル場合ノ外市町村行政ニ關スル事項ハ一切其議決ヲ經サルヘカラス市制第三十一條町村

制第三十三條ニ規定セル事件ノ如キハ唯其重要ナルモノヲ例示セルニ過キス市町村會ノ議決ヲ要スルモノハ決シテ之ニ止マラサルコトヲ知ラサルヘカラス其他市町村會ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ市町村吏員ノ選舉ヲ行ヒ又市町村事務ニ關スル書簿ヲ檢閲シ市町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及收支ノ正否ヲ監督スルノ職權ヲ有シ市町村ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得又官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ陳述スルノ義務アリ市町村ノ公益ニ關スル事件トハ夫レ自身直接ニ市町村ノ公益ニ關係スル事件ヲ謂フモノニシテ彼ノ市町村ノ一ノ行政機關ノ行動カ市町村ノ公益ヲ害スルヲ理由トシテ之ヲ排斥セントスルカ如キコトハ決シテ市町村ノ公益ニ關スル事件中ニ包含スルモノニ非サルナリ然レトモ市町村會ハ元來議決機關ニシテ行政機關ニ非サルカ故ニ外部ニ對シテ市町村ノ權力ヲ施行スルコトナシ唯市町村會ニ於テ市町村會議員選舉ニ關スル訴願ヲ裁決スル場合ノ如キハ法ノ特別ノ規定ニ依リ行政廳トシテ行動スルモノニシテ例外ニ屬スルモノナリ尙ホ市町村會ニ於テ爲ス所ノ訴願ノ裁決ニ關シテハ市制町村制ハ廣ク市町

村住民及公民タル權利ノ有無選舉權及被選舉ノ有無選舉人名簿ノ正否並ニ其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權及市町村會議員選舉ノ效力ニ關スル訴願ハ市町村會之ヲ裁決スルコトヲ規定スレトモ唯漠然公民權ノ有無ヲ爭ヒ又ハ選舉權被選舉權ノ有無ヲ爭フ所ノ訴願ノ如キハ元來之ヲ起シ得ヘキモノニ非サルカ故ニ結局市町村會ニ於テ裁決スル訴願ハ選舉人名簿ノ正否ニ關スルモノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關スルモノ及當選後資格要件ヲ有セスト議決セラレタル場合ニ之ヲ爭フモノタルニ外ナラサルナリ市會ニ於テハ毎歴年ノ初メ一周年ヲ限リ議長一名及議長故障アルトキ之カ代理ヲナスヘキ代理者一名ヲ互選シ町村會ニ於テハ町村長ヲ以テ議長トシ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ如斯ク議長ノ組織ニ關シテ市會ト町村會トノ間ニ區別ヲナシタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラシテ殊ニ議長ノ任ニ堪フル者ハ概テ少ク且町村長ハ市參事會ノ如キ合議體ニ非ス獨任制ノ行政廳ニシテ即チ一人一箇ノ責任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スルモノナルヲ以テ成ルヘタ議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレハナ

リ市町村會ニ於テ會議ノ事件、議長及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシ其代理者之ニ代ルヘキモノトシ議長代理者共ニ故障アルトキハ市町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長トナスヘキモノトス市町村會ハ常設ノ機關ニ非ス其議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定メタル場合ニ於テハ會議ノ必要アル毎ニ會議スヘキ事件ヲ議員ニ告知シテ議長之ヲ招集ス又市會ニ在テハ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ市長若ハ市參事會ノ請求アルトキ町村會ニ在テハ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集セタルヘカラス其招集並ニ會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クモ會議ノ三日前タルコトヲ要ス市町村會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲナスコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付キ再回招集シテ尙ホ半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス市町村會ハ市參事會町村長ノ發スル議案ニ付キ議決ヲナシ得ルノミニシテ自ラ發案ヲナスコトヲ得ス但市町村ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ監督官廳ニ差出シ又ハ官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ陳述スル場合ノ如ク全ク市町村會ノ自動行爲ト見ルヘキモノニ付テハ市町村會中ニ於テ

發案シ得ルモノナリト見ルノ外ナシ其他訴願ノ裁決ヲナスカ如キモ實ハ市町村會ノ自動行爲ト見ルヘキモノナリト雖モ此場合ニ在テハ訴願人ハ市長町村長ニ對シテ其申立ヲナスヘシトスル點ヨリ見レハ法ノ精神ハ市町村會ヲシテ自ラ裁決案ヲ起シテ之ヲ議決セシメントスルニ非スシテ市長町村長ノ發案セル裁決案ニ付キ市町村會ヲシテ之ヲ議決セシメントスルニ在ルカ如シ市町村會ノ議決ハ多數ニ依リ之ヲ定メ可否同數ナルトキハ再議シ猶ホ同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル又議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ議決ニ加ハルコトヲ得ス議員ノ數此除名ノ爲ニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ市會ニ在テハ府縣參事會町村會ニ在テハ郡參事會之ニ代テ議決ヲナスモノトス市町村會ニ於テ吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲナシ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ當選トセス若シ過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシメ若シ最多數ヲ得タル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシメ此再投票ニ於テモ猶ホ過半數ヲ得

ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他投票ニ關スルコトハ市町村會議員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス但市町村會ノ議決ヲ以テスレハ右ノ選舉方法ニ代ヘ議長ニ一任シテ吏員トナルヘキ人ヲ選定セシムルカ如キ所謂指名推選ノ方法ヲ用フルコトヲ得市町村會ノ會議ハ公開スルヲ本則トスレトモ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノコトヲ總理シ開會閉會並ニ延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ニシテ公然贊否ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得市町村會ニ於テハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘク議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名スヘキモノトス而シテ書記ハ市會ニ在テハ市會之ヲ選任シ町村會ニ在テハ議長タル町村長之ヲ選任スルモノトス市町村會ハ其會議總則ヲ設タルコトヲ要シ其總則ニ違背シタル議員ニ科スヘキ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設タルコトヲ得

小町村ニシテ公民ノ數少キモノニ在テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定

ニ依リ別ニ町村會ヲ設ケスシテ選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ町村長ニ於テ町村住民及公民タル權利ノ有無及選舉權ノ有無ニ關スル訴願ヲ裁決スル外町村會ノ職務ハ町村會ニ關スル規定ニ依リ總テ町村總會ニ於テ之ヲ行フモノトス以上市制一乃至四八町村制一乃至五二)

第二款 行政機關

行政機關ノ組織ハ市ト町村トニ依リ少シク其趣ヲ異ニセリ市町村會ニ依テ決定セラレタル市町村ノ意思ヲ外部ニ向テ執行スル機關即チ市町村ノ行政廳ハ市ニ在テハ市參事會ト稱スル合議體ナルニ反シテ町村ニ在テハ町村長ト稱スル獨任制ノ機關ナリ元來地方自治行政ニ於テハ地方人民ヲシテ可成多ク實際ノ行政ニ當ルノ機會ヲ得シメントスル點ヨリイヘハ合議制ノ行政廳ヲ設タルヲ良シトスレトモ合議制ハ獨任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ且此制ヲ行ハントスレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與スヘキ適任者ヲ多ク求メサルヲ得ス然

ルニ町村ノ行政ノ如キハ力メテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルノミナラス多數ノ行政適任者ヲ得ルコトモ亦難シトスル所ナルカ故ニ勢此制ニ依ル能ハサルノ事情アリ是レ市ニ於テハ合議制ノ行政廳ヲ設クルニ拘ラス町村ニ於テハ獨任制ノ行政廳ヲ置ク所以ナリ

市ノ行政廳タル市參事會ハ市長一名助役東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名名譽職參事會員東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名ヲ以テ組織セラル但シ助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テスレハ其定員ヲ増減スルコトヲ得市長ハ有給職トシ其任期ハ六年ニシテ內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フモノトス若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシムヘク再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ掌セシムヘキモノトス助役ハ有給職トシ其任期ハ六年ニシテ市會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ハ前掲市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキノ規定ニ依ルヘキモノナレトモ投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス

ヘキモノトス助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲナスヘク再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ掌セシムヘキモノトス市長及助役ニ任セララルルニハ必スシモ其市公民タル者ニ限ラス但シ其任ヲ受ケタルトキハ公民タルノ權利ヲ得ヘシ如斯ク市長及助役ヲ名譽職トナササルハ畢竟此等ノ者ハ管ニ市參事會ヲ組織スル分子ナルニ止マラス其實ハ主トシテ市行政ノ衝ニ當ルモノニシテ大ニ事務ノ才幹アル者ヲ必要トシ而シテ今日ノ狀勢ニ於テ必ス之ヲ市公民ノ中ニ求メントスルハ適材ヲ得ル所以ノ道ニ非サルヲ以テナリ名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十才以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ市會ニ於テ之ヲ選舉ス選舉ノ方法ハ助役選舉ノ場合ト同シ任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ選任セシムルモノトシ初回ノ選任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ選任者ト雖モ再選セララルコトヲ得又任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス若シ關

員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補關選舉ヲナスヘキモノトス法カ名譽職參事會員半數改選ノ制ヲ取レル所以ハ曩ニ市會議員ノ半數改選ニ付テ逃ヘタルト同シク又市會議員ノ場合ト異ナリ關員アルトキハ直ニ補關選舉ヲ行フヘシトナセルハ畢竟參事會員ハ行政廳タル參事會ヲ組織スルモノニシテ而シテ其組織ハ一日モ之ヲ不備ノ狀態ニ置クヲ不便トスルモノアルニ依ルナリ市長助役其他參事會員ハ所屬府縣ノ官吏有給ノ市吏員檢事及警察官吏神官僧侶其他諸宗教師及小學校教員ヲ兼スルコトヲ得ス唯注意スヘキハ此處ニ相兼スルコトヲ得ストイフハ同一人ニシテ市長タリ且前記ノ職員タルカ如キコトヲナシ得ストノ意味ニシテ前記ノ職員タル者ハ絕對的ニ初メヨリ市長ニ任セラサル資格ナシトイフカ如キ意味ニ非サルコト是ナリ故ニ例ヘハ市ノ助役カ其市ノ市長ニ任セラレ得ルニハ其任命ノ前ニ於テ助役ノ職ヲ辭スルコトヲ必要トセス市長ニ任セラレタル後ニ於テ初メテ之ヲナスヲ以テ足レリトス内務當局者ノ如キハ此點ニ付テ吾人ト其見解ヲ異ニスルカ如シト雖モ法ノ精神ハ正ニ吾人カ此處ニ述フルカ如キモノナルヘキヲ疑ハス尙ホ辯護士ニ非スジ

テ他人ノ爲ニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シ事ヲ辯スルヲ以テ棄トナス者ハ議員ニ選舉セララルコトヲ得ス又父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス其緣故アル者カ共ニ選舉セラレタル場合ニ於テ何レノ一方カ其職ニ當ルコトヲ避クヘキヤノ關係ハ同一ノ緣故アル者カ共ニ市會議員ニ選舉セラレタル場合ニ於ケルト同シ但シ右ノ緣故アル者ノ一方カ市長ニ任セラレタル場合ニハ他方ノ者其職ヲ退クヘキモノトス名譽職參事會員ノ選舉ニ付テハ市參事會自ラ其效力ノ有無ヲ議決スルモノトス一旦當選ト定マリタル者カ後ニ至リ其資格ノ要件ヲ有セナリシコトヲ發見セラレ又ハ就職後其要件ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其人ノ當選ハ無効ニ歸スルモノニシテ其要件ノ有無ハ市參事會ニ於テ之ヲ議決スルモノトス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得訴願訴訟ノ提起カ事件ノ執行力ニ及ホス關係ハ市會議員選舉ノ場合ニ於ケルト同シ名譽職市參事會員ハ所謂市公民ノ義務トシテ之ニ就職スルモノナルカ故ニ正當ノ理由ナクシテ任期中其職ヲ退クハ固ヨリ公民タルノ義務ニ違背スル

モノタリ然レトモ前已ニ述ヘタルカ如ク公民ハ名譽職ニ就クノ義務ヲ有スト
イフコトハ此義務ニ背キテ名譽職ヲ辭スルノ行為カ無効ナルコトヲ意味スル
モノニ非ス故ニ名譽職參事會員ハ正當ノ理由アル場合ハ勿論假令正當ノ理由
ナクトモ義務違背ノ制裁ヲ受クルノ危險ヲ冒セハ任期中何時ニテモ其職ヲ退
クルコトヲ得換言スレハ名譽職參事會員カ一タヒ其職ヲ退カントスルノ意思
表示ヲ市ニ對シテナシタルトキハ其意思表示ハ直ニ其效力ヲ生シテ退職ノ結
果ヲ生スルモノナリ之ニ反シテ市長及助役ハ公民ノ義務トシテ強制的ニ就職
セシメラレタルニ非ス有給職トシテ自己ノ自由意思ニ依リ就職セルモノニシ
テ而シテ一定ノ任期ヲ有スルカ故ニ法ニ何等ノ規定ナキ場合ニ於テハ之ヲ選
任シタル市會ノ承認ヲ得ルニ非レハ任期中決シテ其職ヲ退クコトヲ得サルモ
ノナリトイハサルヘカラス然レトモ必ス此原則ニ依ルヘシトスルコトハ時
シテ不便ヲ感スルコトヲ免カレサルヲ以テ法ハ特ニ規定ヲ設ケテ三箇月前ニ
申立ツルトキハ隨時退職ヲナシ得ルコトヲ定メ而シテ此場合ニ於テハ退職料
ヲ受クルノ權利ハ之ヲ失フコトトナセリ又市長及助役ハ有給職ニシテ一意專

法施行規則第九條ノ規定アルニ依リ蓋シ其然ルコトヲ知ルヘキナリ

所得稅法ハ選舉手續ニ關シテハ頗ル其規定ヲ省略シタルカ故ニ投票函ノ開閉
其保管又ハ投票ニ關スル記録等ニ付テハ何等規定スル所ナシト雖モ苟モ選
舉ヲ行フ以上ハ投票ノ散亂紛失又ハ偽造變造等ヲ防タノ手段ヲ取ルヘキハ
勿論投票ニ關スル顛末モ亦之ヲ記録スヘキコト當然ナリト謂ハサルヘカラ
ス

(5) 開票 開票ニハ必ス選舉資格ヲ有スル者二人ヲシテ立會ヲ爲サシムルコ
トヲ要ス而シテ其立會人ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ選任スヘキモノトス所得
稅法施行規則第七條

左ニ掲グルカ如キ投票ハ無効トス

a 選舉人ノ記名ナキモノ

b 選舉人ノ何人ナルカヲ知ルコトヲ得サルモノ

c 資格ナキ者ノ投票

d 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中

現行組織法 各種ノ組織 所得稅 現行所得稅

資格アル者ニ付テハ無効ニアラス。被選人ノ何人ナルヤヲ知ルコトヲ得サルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中何人ナルカヲ知ルコトヲ得ル者ニ付テハ其效アルモノトス

f 投票中ニ記載シタル文字ニ依リ選舉人ノ意思不明ナルモノ

一投票ニシテ其選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヨリ順次棄却シ定數ニ至リテ止ムヘキモノトス所得稅法施行規則第九條

投票ノ有效無効ニ付テハ問題ト爲リタルトキ事實ニ付テ之ヲ決スヘキモノナラト雖モ選舉事務ハ現ニ市區町村長又ハ戸長之ヲ行フモノナルカ故ニ開票ニ際シ投票ノ效力ニ付キ疑義アルトキハ市區町村長又ハ戸長之ヲ決スヘキハ當然ナリ此場合ニ於テハ一應立會人ノ意思ヲ徵スルヲ以テ穩當ノ處置ト爲スヘシ

開票ニ關シテモ亦市區町村長又ハ戸長ハ記錄ヲ調製シ立會人ト共ニ署名捺印スルヲ相當トス

(6) 當選 選舉ニ於テハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同セキトキハ年長者ヲ取り生年月同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ當選人ヲ定ムヘキモノトス(所得稅法第一九條)

當選人定マリタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ其氏名ヲ公示セサルヘカラス所得稅法第二〇條此場合ニ於テ法律又ハ施行規則ハ當選人及ヒ稅務署長ニ通知スヘキコトヲ定メスト雖モ實際ニ於テハ此通知ヲ爲スヲ便宜トスヘシ

調査委員選舉人ニ當選シタル者ハ其承諾ヲ須タス當選ニ依リテ直チニ調査委員選舉人ト爲ルモノナリ而シテ法律ハ辭任ヲ許スノ規定ヲ設ケサルカ故ニ解釋上ハ辭任スルコトヲ得サルモノト爲ササルヘカラス但シ調査委員選舉人ハ必スシモ調査委員ヲ選舉セサルヘカラサルモノニアラサルカ故ニ其選舉權ヲ拋棄シ事實ニ於テハ辭任ト殆ト同一ノ結果ヲ生セシムルコトヲ得ルモノナリ

乙 調査委員

調査委員ヲ選舉スル場合ニ於テハ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘキモノナリ(所得稅法第二一條)而シテ補闕員ハ調査委員ノ缺如シタル場合ニ於テ之ニ代リテ調査委員ト爲ルヘキモノナルカ故ニ調査委員ニ關シテ説明スル所ハ總テ其補闕員ニモ適用セララルモノナリ

(イ)選舉區域 調査委員ハ稅務署ノ管轄區域毎ニ之ヲ選舉スヘキモノトス(所得稅法第一三條第一項)

(ロ)選舉資格 調査委員ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ調査委員選舉人ニ當選シタル者ニ限ルモノナリ

(ハ)被選資格 調査委員ニ選舉セララルコトヲ得ル者ハ其選舉區域内即チ稅務署所轄内ニ居住シ所得稅法第八條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ法定ノ缺格條件ニ該當セタル者ニ限ル(所得稅法第一四條)即チ調査委員選舉人ノ被選資格ト大體ニ於テ相似タリ故ニ調査委員選舉人ノ被選資格ニ付キ説明シタル所ハ亦以テ調査委員ノ被選資格ヲ説明スルニ足ルモノナリ

(ニ)選舉手續

(1)選舉管理者 調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行スヘキモノナリ(所得稅法第一六條)

(2)選舉期日 選舉期日ハ稅務署長之ヲ定ムヘキモノニシテ稅務署長ハ少クトモ選舉七日前ニ其期日ヲ公示スルコトヲ要ス(所得稅法第二一條)

(3)選舉人ノ確定 調査委員ヲ選舉スルコトヲ得ル者ハ調査委員選舉人ナルカ故ニ調査委員ノ選舉人ハ調査委員選舉人ニ當選シタルコトニ依リテ確定スルモノナリ而シテ何人カ調査委員選舉人ニ當選シタルヤハ市區町村長又ハ戶長ノ公示ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ(所得稅法第二〇條)

4 投票

(5)開票

(6)當選

調査委員選舉人選舉ノ場合ニ於ケル投票開票及ヒ當選ニ關スル説明ハ總テ之ヲ調査委員選舉ノ場合ニ於テハ投票開票及ヒ當選ニ準用スルコトヲ得ルモノナリ(所得稅法第一八條第一九條第二二條)所得稅法施行規則第八條第九條)唯法

律ハ調査機關ノ成立ヲ速ナラシムルノ目的ヲ以テ調査委員タル任務ヲ盡スヲ以テ當選者ノ義務ト爲シ正當ノ事故アルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ許サス所得稅法第二三條此點ハ調査委員選舉人ニ當選シタル者カ調査委員ノ選舉ニ當リ投票ヲ爲サス之ニ依リテ事實辭任ト同一ノ結果ヲ生セシムルコトヲ得ルモノト異ナル所ナリ而シテ調査委員ヲ辭スル正當ノ事故ト爲スヘキモノハ稅務管理局長カ已ムヲ得スト認メタル事故ニ限ルカ故ニ所得稅法施行規則第一〇條(一)ニ稅務管理局長ノ認定ニ依ルヘキモノトス

四 任期

調査委員ノ任期ハ滿四年ナリ然レトモ法律ハ二年毎ニ其半數ヲ改選スヘキコトヲ定メタルヲ以テ第一回ニ調査委員ニ當選シタル者ニシテ第一回ノ改選期ニ於テ抽籤ノ結果退任者ト定マリタル者ハ其任期ハ二年ナリト謂ハサルヘカラス所得稅法第二四條第一項ニ於テ第一回ノ改選期ニ於テ其半數ヲ改選スル調査委員ノ定數奇數ナル場合ニ於テ第一回ノ改選期ニ於テ其半數ヲ改選スルニハ多數ノ一半ヲ改選スヘキカ將タ少數ノ一半ヲ改選スヘキヤ之ニ對スル解

答ニハ兩說アリ甲說ハ少數退任ヲ主張スルモノニシテ其說ニ曰ク權利ノ喪失ニ關スル法文ハ成ルヘク狹ク解釋セサルヘカラス調査委員中ノ或者ヲシテ退任セシメントスルハ其者ヲシテ權利ノ喪失セシメントスルモノナリ故ニ法文ノ意明瞭ナラサルトモハ成ルヘク退任者ノ數ヲ少カラシムルノ意ニ解セサルヘカラスト之ニ反レテ乙說ハ多數退任ヲ主張シ凡ソ改選ナルモノハ選舉人ノ満足セサル者ヲシテ任務ヲ去ラシメ新ニ其信任スル者ヲシテ任務ニ當ラシムルカ爲メ之ヲ行フモノナルカ故ニ必要ナキ限りハ全員ヲシテ退任セシムルヲ相當トス唯所得稅法ニ於テハ全員ノ退任ハ事務ノ聯絡ヲ缺クノ虞アリト爲シ半數ヲソノ改選ヲ爲スヘキモノト爲シタリト雖モ其趣旨ヲ達スル範圍内ニ於テハ成ルヘク選舉人ノ新意向ヲ満足セシムルノ意ニ依リテ成ルモノト謂ハサルヘカラス隨テ法律ニ明文ナキ限りハ多數ノ一半ヲ改選スルコト當然ナリ特ニ現行法ノ基礎ヲ爲シタル舊所得稅法ハ多數ノ一半ヲ改選スヘキコトヲ規定シタルニ對シ現行法ハ之カ規定ヲ爲ササルノミニシテ別ニ少數者ヲ退任セシムルコトニ改正シタルコトヲ想像スヘキ規定ナキヲ以テ見レハ現行所得稅法

モ亦此點ニ於テハ舊所得稅法ノ意ト異ナル所ナシト爲スコト解釋ノ當ヲ得タルモノナリト爲ス現今實際ノ取扱ニ於テ以上兩說ノ孰レニモ依ラス各調査委員會ニ於テ孰レノ一半ヲ改選スヘキヤヲ協議セシメ其決議ニ依リテ退任スヘキ半數ヲ定ムヘキモノトセリ是レ行政上ノ便宜ニ出タルモノニシテ解釋上ノ論斷ニアラス法律論トシテハ予ハ乙說ニ左袒スル者ナリ

補關員ハ二年毎ニ其全員ヲ改選スヘキモノナリ(所得稅法第二四條第二項)而シテ補關員ノ數ハ常ニ選舉セラルヘキ調査委員會ノ數ニ同シカルヘキカ故ニ(所得稅法第二一條第一回選舉ノ場合ニ於テハ補關員ノ數ハ調査委員會ノ數ト同一ナリト雖モ第一回改選後ニ於テハ補關員ノ數ハ常ニ調査委員會ノ數ノ半數ニ過キス

改選期ニ至ルニ先チ調査委員會ニ關員ヲ生シタルトキハ補關員中最モ多キ投票ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充スヘキモノナリ若シ投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ先ニシ生年月同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ補充者ヲ定ムヘキモノトス而シテ此場合ニ於テ補關員ヨリ調査委員會ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間

トス故ニ補關員トシテハ二年ニシテ改選セラルヘカリシ者ト雖モ殘期間三年以上ノ調査委員會ノ補充ヲ爲シタルトキハ其期間調査委員會タルヘキモノトス(所得稅法第二四條第三項第四項)

補關員ヨリ補充シ盡シタル後尙ホ調査委員會ニ關員ヲ生シタルトキハ調査委員會ノ選舉ヲ爲ササルヘカラス此場合ニ於テ調査委員會ニ當選シタル者ノ任期ハ四年ニアラスシテ前任者ノ殘期間ナリ法律ハ此場合ニ付キ何等ノ規定ヲ爲サスト雖モ此ノ如キハ補關選舉ナルモノヨリ生スル當然ノ結果ナルノミナラス若シ此ノ如ク解スルニアラサレハ所得稅法第二四條第一項ニ依リ二年毎ニ調査委員會ノ半數改選ヲ行フコトヲ得サルニ至ルヘキカ故ニ該條文ノ存在スルヨリ見ルトキハ法律ノ意モ亦茲ニ在ルモノト謂ハサルヘカラス

五ニ會議ニ關シテハ調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リテ開會スルモノトス(所得稅法第二六條)而シテ毎年遅クトモ八月一日マデニハ調査委員會ヲ開カサルヘカラサルカ故ニ所得稅法第二五條稅務署長ハ毎年八月一日前相當ノ時期ニ開會ノ

場所ト期日トヲ定メ之ヲ各調査委員ニ通知セラルヘカヲ以テ、調査委員ハ、調査委員會ハ一年二回以上之ヲ開クコトヲ得ルヤ否ヤハ所得税法上一ノ問題ナリト雖モ法律カ其第二十五條ニ於テハ開會スベキ最後ノ日ヲ定メ其第三十條ニ於テハ調査ヲ結了スヘキ最後ノ日ヲ定ムルヲ以テ見レハ法律ノ意ハ調査委員會ノ開會ハ毎年一回ニ止ルモノト爲スニ在リト謂フヲ以テ當ヲ得タルモノト信ス

(一) 會長ハ調査委員會ノ會長ハ調査委員ノ互選ニ依リテ定マレモノニシテ毎年調査委員會開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉スヘキモノトス所得税法第二十七條ニ會長事故アリ調査委員會ニ出席セラルトキハ調査委員中ノ年長者ニ於テ之ヲ代理スヘキモノトス所得税法施行規則第一一條

(二) 職務ハ調査委員ハ納税義務者ノ所得金額ヲ調査スルモノナリト雖モ自己ノ所得金額ノ調査ニ關シテハ之ニ干與スルコトヲ得ス所得税法第二九條蓋シ公平ヲ失スルノ虞アルヲ以テナリ然レトモ法律ハ唯調査委員ヲシテ自己ノ所得金ニ關スル職務ニ與ルコトヲ禁ズタルノミナルカ故ニ調査委員カ親族又ハ家族ノ所得ヲ調査スルハ法律ノ禁スル所ニアラス但シ近親又ハ家族ノ所得ニ付テハ職務ニ與ルヲ避クルコト調査委員ノ美德ト爲スヘシ

調査委員會ニ於テ調査討論スルニハ法律ハ出席員ノ最低限ヲ定メタルカ故ニ出席シタル調査委員ハ如何ニ少數ナルモ所得ノ調査ヲ爲スコトヲ妨クスト雖モ決議スルニハ定員ノ過半数ニ當ル委員ノ出席アルコトヲ要ス故ニ過半数ノ出席ナキトキハ決議スルコト能ハサルモノトス所得税法第二八條第一項

議事ハ比較多數法ニ依リ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決スヘキモノナリ所得税法第二八條

調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知セラルヘカラス所得税法施行規則第一二條

六 報酬

調査委員ハ日常及ヒ旅費ノ支給ヲ受ク所得税法第三三條明治三十二年大藏省令第十二號

第二 審査委員會

現行租税法律 各種ノ租税 所得税 現行所得税

(一) 區域 審査委員會

審査委員會ハ各稅務管理局所轄内ニ之ヲ置クモノトス所得稅法第三七條第三項所得稅法施行規則第一五條

(二) 定數

審査委員ノ定數ハ七人ニシテ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織スヘキモノトス(所得稅法第三七條第二項)

(三) 選任

收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ任命スルモノニシテ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ調査委員之ヲ選舉スルモノナリ所得稅法施行規則第一六條大藏大臣ニ於テ任命スル手續ハ之ヲ説明スルヲ要セサルカ故ニ之ヲ省略シ調査委員ニ於テ選舉スル場合ニ付テノミ一二言ヲ費スコトトスヘシ
(イ) 選舉區域 審査委員ハ稅務管理局ノ管轄區域毎ニ之ヲ選舉スヘキモノトス所得稅法第一六條後段
(ロ) 選舉資格

(一) 被選資格 審査委員ノ選舉並ニ被選資格ハ選舉區域内ニ於ケル調査委員ノミ之ヲ有ス(所得稅法施行規則第一六條後段)

(二) 選舉手續

(1) 選舉管理者 審査委員ノ選舉ハ稅務管理局長之ヲ管理スヘキモノナリ(所得稅法施行規則第一七條)

(2) 選舉期日 選舉期日ハ稅務管理局長之ヲ定メ審査委員ニ選ハルコトヲ得ヘキ者即チ所轄内調査委員ノ氏名ト其ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘキモノトス(所得稅法施行規則第一八條)

(3) 選舉人ノ確定 審査委員ヲ選舉スルハ調査委員ナルヲ以テ調査委員タル

コトニ依リテ選舉人ハ確定ス(委員ノ選定ハ之ニ依リテ定ムルカモハズ)

(4) 投票

投票ハ調査委員ノ氏名ト其ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘキモノトス

(5) 開票

開票ハ調査委員ノ氏名ト其ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘキモノトス

(6) 當選

當選ハ調査委員ノ氏名ト其ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘキモノトス

其說明ヲ省略スヘシ所得稅法施行規則第一九條第二〇條第二一條第二二條
四 任期

收稅官吏ニシテ審査委員タル者ハ免官又ハ休職ト爲リ若クハ審査委員ヲ免セ
ラルルマテハ在任スルモノトス調査委員ニシテ審査委員タル者ハ所得稅法施
行規則第十六條ニ依レハ毎年全員ヲ改選スルモノナルカ故ニ改選セラルルマ
テ在任スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ

五 會議

審査委員會ノ開會會長議事ニ關シテハ調査委員會ニ付テ述ヘタル所ト相類似
ス故ニ之ヲ省略ス所得稅法施行規則第二三條第二四條第二五條第二六條第二
七條第二九條

六 報酬
調査委員ニ同シ

第四款 課稅率

第四款 課稅率

所得稅ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第一種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第二種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第三種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第四種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第五種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第六種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第七種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第八種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第九種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十一種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十二種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十三種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十四種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十五種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十六種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十七種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十八種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第十九種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

第二十種ノ稅率ハ左ノ如シ所得稅法第三條第一項

五萬圓以上十萬圓未満

千分ノ五十五

十萬圓以上三萬圓未満

千分ノ五十五

即チ第一種及第二種ノ所得ニ付テハ比例ヲ以テ所得稅ヲ課シ第三種ノ所得ニ付テハ限定的累進ヲ以テ所得稅ヲ徵セントスルモノナリ蓋シ法人ノ所得ナルモノハ箇人ヲ離レタル別箇無形人ノ所得ナリト謂フト雖モ其所得ハ結局法人ヲ組織スル各箇人ニ歸スヘキモノナリ而シテ法人ヲ組織スル各箇人ノ側面ヨリ觀察スルトキハ法人ノ所得ノ大小ハ必スシモ其箇人ノ所得ノ大小ヲ成スモノニアラス何トナレバ法人ノ所得ハ其事業ノ盛衰ニ依リテ不同ナルヘキハ勿論ナリト雖モ而モ又其資本ノ多少ニ依リテ相異ナルヘキハ當然ナルヲ以テ多數ノ社員又ハ株主ヲ有ス資本多大ナル會社カ比較的多大ノ所得ヲ得ルモ之ヲ其社員又ハ株主ニ配當スルトキハ其配當額タル他ノ小會社ニシテ比較的寡少ノ所得ヲ得タルモノノ配當額ニ及ヤサルコト鮮シトセス故ニ法人ノ所得ニ付キ資本ノ多少ヲ度外視シテ累進稅ヲ課スルトキハ甚シキ不公平ヲ生スヘシ故ニ法律ハ所得ノ多少ニ拘ラズ總テ單一ノ比例稅率ヲ以テ其所得稅ヲ徵收ス

益アリト信ス而シテ實際ノ手續ニ於テハ裁判所ニ於テ相當評價ノ能力アリト認ムル箇人ニ評價ヲ命スト雖モ予ヘ之カ爲メニ(少クトモ大都會ニ於テハ)特ニ公ノ吏員ヲ設クルヲ以テ諸般ノ弊害ヲ避クルノ利益アリ從テ信用シ得ヘキ相當ナル評價ヲ見ルニ至ルヘキヲ信ス

第二 就賣期日及ヒ就落期日ノ指定並ニ公告

裁判所カ右ノ手續ニ依リ最低就賣價額ヲ確定シタル後尙ホ別ニ開始決定ヲ取消シ就賣ノ手續ヲ廢止スヘキ理由ヲ發見セサルトキハ更ニ手續ヲ進行スヘク先ツ左ノ手續ニ從フヘキモノトス

(甲) 就賣期日並ニ就落期日ヲ定メ一定ノ公告ヲ爲スコト

一 就賣期日ハ公告ノ日ヨリ少クトモ十四日ノ後タルヘク就落期日ハ就賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス而シテ就賣期日ハ軌達吏ヲシテ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ開カシムヘク就落期日ハ必ス裁判所ニ於テ之ヲ開クヘキモノトス第三〇條民事訴訟法第六五九條第六六〇條而シテ此要件ニ違フトキハ就落不許ノ原因ト爲ルモノトス

別賣法 不動産ノ別賣 別賣ノ準備手續

(第三) 二條民事訴訟法第六七二條第六、第六七四條第二項

二 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(第二九條民事訴訟法第六五八條)

イ 競賣法第二十二條ニ揭ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨

ロ 不動産ノ表示

ハ 租税其他ノ公課

ニ 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

ホ 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲スヘキ執達吏ノ氏名並ニ住所

ヘ 最低競賣價額

ト 競賣期日ノ場所及ヒ日時

チ 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上ノ權利ヲ有スル者ハ其債權ヲ申立

リテシトス旨

リ 利害關係人競賣期日ニ出頭スヘキ旨

公告ニ右ノ要件ヲ缺クトキハ又タ競賣不許ノ原因ト爲ルモノトス(第三二

條民事訴訟法第六七二條第四、第六七四條第二項)

三 競賣期日ノ公告ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲ス(第二九條第二項民事訴訟法

第六六一條)

イ 裁判所ノ揭示板ニ揭示スルコト

ロ 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板ニ揭示スルコト

右ノ外裁判所ノ意見ニ依リ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニモ掲載スルコトヲ得

ヘシ面シテ此公告ヲ缺クトキハ又タ競賣不許ノ原因ヲ生ス(第三二條民事訴訟

法第六七二條第五、第六七四條第二項)

(乙) 裁判所ハ競賣手續ニ從事スヘキ執達吏ヲ指定スルコトヲ要ス

◎第六號書式

不動産競賣期日公告

明治三十何年(何第何號)

不動産競賣又ハ再競賣新競賣期日公告

不動産ノ表示

競賣法 不動産ノ競賣 競賣ノ準備手續

競賣法 不動産ノ競賣 競賣ノ準備手續

何市區町何番地

一市街宅地

何坪也

右一ヶ年ノ租税金何程也其他一ヶ年ノ公課金何程也

最低競賣價額金何圓也

右不動産ハ何某所有ノ處抵當權者但之ハ抵當權者カ競賣ヲ申立ヲタルトキ

ニ限ル何某ノ申立ニ因リ競賣法ニ從ヒ競賣又ハ再競賣新競賣ニ付ス

競賣期日ハ明治三十何年月日午前午後何時トス

競賣ハ某所某番地執達吏何某ヲシテ當區裁判所構内ニ於テ之ヲ取扱ハシム

競落期日ハ明治三十何年月日午前又ハ午後何時當區裁判所ニ開ク

登記簿ニ要セザル不動産上權利ヲ有スル者ハ其債權ヲ申出ツヘシ

利害關係人ハ競賣期日競賣ノ場所ニ出頭スヘシ

明治三十何年 月 日

何某區 裁判所

(注意一) 貸貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借貸ヲ記載スヘキモノトス

第五節 競賣手續ニ於ケル法律上ノ賣却條件

法律ハ利害關係人ノ利益ヲ保護スルカ爲メ不動産ノ競賣ニ關シ賣却條件ヲ規定セルコト左ノ如シ

第一 不動産ノ最低競賣價額ヲ定ムルコト(第二八條)

第二 競買人ノ保證ヲ立ツヘキ義務及ヒ其方法第三〇條、民事訴訟法第六四

條第七〇五條

第三 競買人カ其申出タル競賣價額ニ付キ羈束セラルル責任及ヒ其免除第一

條

第四 競賣ノ目的物上ニ加ハレル事變ニ依リ競買人ニ生スル競買取消ノ權利

(第三二條、民事訴訟法第六七八條)

第五 不動産ニ關シテ存スル債務ヲ債權者ニ辨済スルコト(第二條第三項)

第六 競賣ノ目的物タル權利ノ取得(第二條第一項)

競賣法 不動産ノ競賣 競賣手續ニ於ケル法律上ノ賣却條件

第七 不動産ノ引渡ハ代金支拂ノ後ニ非サレハ之ヲ許ササル制限第三二條民事訴訟法第六八七條

第八 賣却代金徴收ノ時期(第三三條)

右掲クル内第二、第四、第七ノ條件ハ利害關係人ノ一致ノ合意アルトキハ之ニ變更ヲ加フルコトヲ妨ケサルコトハ民事訴訟法第六百六十二條ノ準用トシテ之ヲ知り得ヘシ但其合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲シ得ルニ止マル(第三〇條民事訴訟法第六六二條)

此法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルモノヲ特別ノ賣却條件ト云フ而シテ特別ノ賣却條件アルトキハ競賣期日ヲ開キタル際各人ニ之ヲ告知シ且之ヲ告知シタルコトヲ競賣調書ニ掲クルコトヲ要ス(第三〇條民事訴訟法第六六三條、第六六七條)

茲ニ問題ト爲ルハ競賣期日ハ利害關係人ノ合意ニ依リ之ヲ變更延期スルコトヲ得ルヤ否ラフコト之ナリ民事訴訟法ニ定ムル賣却條件ハ利害關係人ノ合意ニ依リ變更シ得ヘキモノタルコト前陳ノ如クナルカ故ニ此問題タルヤ競賣期

日モ亦同法ニ所謂賣却條件ナリヤ否ラフ問題ニ外ナラス隨テ同法ニ所謂賣却條件ノ意義如何ヲフコトニ歸著ス

依テ按スルニ民事訴訟法ハ別ニ賣却條件ノ意義如何ニ付キ規定ヲ設ケスト雖モ予ハ賣却條件トハ賣却即チ競賣セラルヘキ物ノ所有權ヲ對價ヲ受ケテ移轉スルコトニ付キ直接ノ關係ヲ有スル條件ナリト解釋スルヲ相當ト信スルカ故ニ競賣法ニ準用セラルル民事訴訟法所定ノ競賣條件トハ前陳ノ如キモノニシテ競賣期日及ヒ競賣期日ノ如キ又タ民事訴訟法第六百六十五條第二項所定ノ時間ノ如キハ賣却條件ニ屬セス隨テ利害關係人ノ合意アリトモ變更スル能ハサルモノト信ス蓋シ若シ競賣ニ付キ存スル各般ノ規定ヲ以テ皆賣却ノ條件ヲ規定スルモノト解スルトキハ競賣ニ關スル手續ハ利害關係人ノ合意アルニ於テハ總ヘテ之ヲ變更シ得ヘキモノト云ハサルヘカラサルニ至リ法律カ競賣手續ヲ規定シタル趣旨ヲ沒了スヘケレムナリ

第六節 競賣ノ實施

競買手續ハ便宜上裁判所ヨリ執達吏ニ命シ之ヲシテ實施セシムヘキモノトス
 (第三〇條)民事訴訟法第六五九條隨テ競買ハ豫テ公告ニ指定セル場所例ヘハ裁判所又ハ其他指定ノ場所ニ於テ其指定ノ日時ニ至リ執達吏之ヲ開クヘキモノトス其實施ノ順序左ノ如シ
 第一 競買期日ノ開始
 執達吏ハ競買期日ヲ開ク旨ヲ來集セル各人ニ告知シ其期日ヲ開キタルトキハ競買前テ先ツ特別ノ賣却條件即チ前陳法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルモノアルトキハ之ヲ告知スヘキモノトス(第三〇條)民事訴訟法第六六三條前段)法律上ノ賣却條件ハ之ヲ告知スルヲ要スル旨ノ明文無キ所以ハ此ノ如キ法定ノ事項ハ各人ニ於テ豫知シテ競買ヲ爲スヘキモノト看做スカ故ナリ(注意)競買法ハ何故ニ民事訴訟法第六五八條第八ト異ナリ記錄ノ閱覽ノ許ヲナシカハ之ヲ解スルニ困ル)

第二 競買申出ノ催告

執達吏ハ右告知ノ手續ヲ盡シタル後競買價額ノ申出ヲ各人ニ催告シ以テ競買

ヲ實施スヘキモノトス(民事訴訟法第六六三條後段)而シテ競買ノ申出アリタルトキハ執達吏ハ其者カ賣買契約ヲ爲シ不動産ヲ取得スル能力ヲ有スルヤ否ヤ其申出アリタル價額ハ最低競買價額ヲ下ラナルヤ否又先キニ申出アリタル價額ニ超過スルヤ否保證ヲ立ツルノ義務ヲ履行シタルヤ否ヲ調査スヘク是等ノ事項ニ欠缺ナキトキ初メテ許スヘキ競買ノ申出ト爲ルモノトス(民事訴訟法第六六四條第一項第六六七條第五後段參照)

(甲) 競買申出ニ付テノ保證
 競買ノ申出アリタルトキニ於テ利害關係人本章第三節參照中ノ何人ナリトモ其申出人ヲ以テ信用ヲ擔キ難キ者ト認ムルトキハ競買義務ノ履行ヲ爲メ其競買人ニ擔保ヲ供セシメントヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第三〇條)民事訴訟法第六六四條此擔保ヲ立テシムルノ必要ハ競買人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ履行セザルトキ之ニ因リテ生スル損害ノ擔保ト爲スニ在リ其損害ニテ再競買第三二條民事訴訟法第六八八條ニ關スル費用義務不履行ノ爲メ生スル利息最初ノ競買ト再競買ヲ爲ス迄ノ間ニ於ケル不動産ノ價低ノ損害等ヲ包含ス

利害關係人カ右ノ申立ヲ爲サントニハ競買人カ競買價格ヲ申出タル後直チニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス而シテ此申立アリタルトキハ競買人ハ其申出タル價額ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ擔保ト爲シ之ヲ執達吏ニ預タルノ義務アリ

而シテ一度右ノ申立アリタルトキハ爾後此競買人カ競買上ケヲ爲ス毎ニ其價額ノ十分ノ一ニ相當スル現金若クハ有價證券ヲ擔保トシテ執達吏ニ預タルコトヲ要ス然ラサレハ其競買ノ申出ハ無効ニシテ競買ヲ許スヘカラサルモノトス

(第六六四條)此預ケ入レタル擔保ハ該競買人カ最高價競買人ト爲リタルトキハ執達吏ヨリ之ヲ裁判所書記課ニ納付スヘク若シ更ニ高價ノ申出ヲ爲シタル競買人ニ競落シ爲メニ擔保ノ必要ナキニ至リタルトキハ執達吏ヨリ之ヲ返還ヲ受クヘキモノトス(第一條、民事訴訟法第六六八條)

(乙)競買ノ申込ニ付テハ拘束及ヒ其免除

競買ヲ許サレタル競買人ハ更ニ之ヨリモ高價ナル競買ノ申込ヲ爲ス者アル迄其申込ニ拘束セラルルモノナリ(第一條故ニ其申出價額カ最高價ナルトキハ不

動產ヲ買取ルヘキ義務アルモノトス而シテ之ヨリモ更ニ高價ナル競買ノ申込アリテ適法トシテ許サルヘキモノアルトキハ此高價ノ競買人カ其申込ニ付キ拘束セラルルコトナリ前ノ競買人ハ直チニ拘束ヲ免ルニ至ルモノトス然レトモ若シ己ヨリモ更ニ高價ノ申出ヲ爲スモノナクシテ已レ最高競買人ト爲リタルトキハ其競買申込ノ效力ハ競買手續カ競落ヲ爲サスシテ終了セラレタルトキ詳言スレハ手續ニ違法アル等ノ原因ニ由リ民事訴訟法第六七二條參照競落ヲ許ササル旨ノ決定アリタルトキマテ又ハ競買申立カ取下ケラルル(第二三條參照)ニ至ル迄存在シ其申込ニ拘束セラルルモノトス(第一條)

但競買期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ競買申込ノ拘束ヲ免除セラルヘシ(第三二條民事訴訟法第六七八條)

第三 競買ノ終局

競買ヲ終局スルニハ競買ノ申出ヲ催告シタル後其申出ニ付キ充分ノ競買上ケヲ爲シ最早高價ノ申出ナキニ至リタル時ニ之ヲ終了スヘキモノニシテ且最初競買ノ申出ヲ催告シタル時ヨリ滿一時間ヲ經過セル後ニ非サレハ之ヲ終結ス

ルコトヲ得ス(第三〇條民事訴訟法第六六五條第二項)若シ其時間前ニ競賣ヲ終了セハ競落不許ノ原因ト爲ル(第三二條民事訴訟法第六七二條第七又タ若シ一時間ヲ經過スルモ適法ナル競買ノ申出ヲ爲ス者ナキハ其旨ヲ調書ニ明確ニ記載シテ手續ヲ終了スヘキモノトス(民事訴訟法第六六七條第五ノ後段)又許スヘキ競買價額ノ申出アリタルトキハ競上ノ後前陳ヘタル一時間ノ經過ヲ待テ然ル後最高價競買人ノ氏名及ヒ價額ヲ呼上ケ各人ニ告知シタル後競賣ヲ終了スル旨ヲ告知スヘキモノトス(民事訴訟法第六六六條此終了ノ告知後ハ假令如何ニ高價ナル競買ノ申出アリトモ之ヲ許スコトヲ得ヘカラス)又競買ノ申込ハ他ニ之ヨリモ高價ナル競買ノ申込アリタルトキハ當然其效力ヲ失フモノナルコト前陳ノ如クナルカ故ニ保證ヲ立テタル競買人モ他ニ高價ナル競買ノ申込アルトキハ直チニ其擔保物ノ返還ヲ求メ得ヘキモノトス隨テ此擔保ヲ供シタル者ニシテ更ニ高價ナル競買ノ申込ヲ爲ササルニ於テハ執達吏ハ其擔保物ヲ返還シ其受取證ヲ徴シ之ヲ競賣調書ニ添附スルヲ要ス(第一條民事訴訟法第六六六條同第六六七條第三項)

第四 競賣調書ノ作成

執達吏ハ競賣ノ實施ニ付キテハ民事訴訟法第六六七條ノ規定ニ依リ調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス(第三〇條)

一 不動産ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト(第六六三條)

四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時(第六六三條)

五 總テ申出アリタル競買價額並ニ其申出人ノ氏名住所又ハ許ス可キ競買

ノ申出ナキコト

六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時(第六六五條第二項)

七 申立ニ因リ競買ノ爲メニ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立

テサルカ爲メニ其競買ヲ許ササルコト(第六六四條)

八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼ヒ上ケタルコト(第六六六條)

此調書ハ最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ニ之ヲ示シ之ニ署名捺印セ

競賣法 不動産ノ競賣 競賣ノ實施

九〇

シムヘク若シ是等ノ者カ調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記シ之ヲ明確ニ爲スコトヲ要ス又タ競買ノ保證トシテ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還セルトキハ其受取證ヲ調書ニ添附スルヲ要ス(民事訴訟法第六六七條)
右ノ調書ハ利害關係人ヨリ競落ノ許否ニ關シテ異議アル場合ニ於テ其當否ヲ判斷スルノ材料ト爲ルモノナルヲ以テ明確ニ之ヲ作成セサルヘカラス又最高價競買人カ裁判所所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルカ爲メ假住所選定ノ申出ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ之ヲ調書ニ明確ニスヘク書面ヲ以テ届出タルトキハ之ヲ調書ニ添附スヘキモノトス(民事訴訟法第六六九條)

◎書式第七號 不動産競賣調書

不動産競賣調書

某 所

某 所

請求金額

所 債 有 者 者 何 某 町

一金何圓也

右金額ノ辨濟ニ充ツル爲メ明治何年月日當區裁判所及ヒ何市町村ノ掲示板竝ニ明治何年月日ノ某新聞紙ニ掲載セシム公告ノ通り左ノ不動産

何市區町何番地

一市街宅地 何坪

ノ競賣期日ヲ開キ以下ノ手續ヲ履行シタリ

一特別賣却條件).....ヲ告知シタリ

一明治何年月日午前(午後)何時競買價額ノ申出ヲ催告シタリ

一別紙競買申出人氏名價額目錄ノ通り競買ノ申出アリタリ相當ノ競買ヲ申出ツル者ナキヲ以テ其競買ヲ許サス)

一競買人何某ハ利害關係人何某ノ申立ニ因リ現金又ハ公債證書株券等ノ表示ニテ金何程ノ保證ヲ立テタリ競買人何某ハ利害關係人何某ノ申立アル

競賣法 不動産ノ競賣 競賣ノ實施

九一

競買法 不動産ノ競買 競買ノ實施

九三

モ保證ヲ立テサルニ因リ其競買ヲ許サス）
一 某所何某ヲ以テ最高價競買人ト定メ其氏名並ニ最高價額ヲ呼上ケタル後
何月日午前午後何時競買ノ終局ヲ告知シタリ
右調書ハ左ノ利害關係人承諾ノ上記名調印セリ
最高價競買人 何 某印
競買申立人 何 某印
債務者 何 某印
（何某ハ調書作成前退場シタルニ因リ記名調印セシムルコトヲ得ス）
此調書ハ某所ニ於テ之ヲ作成ス
明治何年 月 日
何區裁判所 何 某印

競買申出人氏名					第號	競買價額	住所	氏名	價額	目録
一					何	何	府縣郡市町番	何	何	
二					何	某	府縣郡市町番	何	圓	錢

第五 執達吏ノ卸任

執達吏カ右陳ヘタル手續ニ依リ競買ヲ終了シタルトキハ連クモ三日内ニ競買
調書ヲ始メ競買ニ關スル書類並ニ保證ノ爲メ預リタル金銀又ハ有價證券ニシ
テ返還セサルモノハ之ヲ裁判所書記ニ渡シ任務ノ卸任ヲ受クヘキモノトス（民

競買法 不動産ノ競買 競買ノ實施

九三

事訴訟法第六六八條蓋シ執達吏カ競賣ヲ實施スルハ裁判所ノ命ニ依リ其手續ヲ實行スルニ過キスレテ最高價競買人ノ呼上ヲ爲スモ未タ以テ競賣終了シテ競落人確定シタルニ非ス競落ヲ確定スル手續ハ爾後裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナレハナリ(注意前陳三日ヲ期間ニハ競賣ノ日ハ算入セス其翌日ヨリ起算スヘキモノト信ス—民事訴訟法第一六五條)

第六 新競賣

最初ノ競賣期日ニ於テ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ更ニ競賣期日ヲ定メテ前陳ヘタル所ト同一ノ手續ヲ以テ競賣ヲ爲スヘキモノトス尙ホ後ニ詳説スヘシ(第三一條民事訴訟法第六七〇條)

第七節 入札拂

第一 入札拂申立ノ時期

競賣法ニ於テハ動産ニ對スルト不動産ニ對スルトヲ問ハス競賣ノ方法ニ依ル

ヲ本則トスレトモ不動産ニ付テハ民事訴訟法ニ依ル強制執行手續ニ於ケルト同シ(同法第七〇二條以下参照)入札拂ノ方法ニ依ルヲ許ス而シテ此方法ヲ採ルニ付テハ入札拂ニ依ルコトヲ求ムル旨ノ申立カ裁判所ニ於テ競賣期日ノ公告ヲ爲スニ至ル前ニ在ルコトヲ必要トス(第三四條)

第二 入札拂ノ申立ヲ爲スヘキ者

強制執行手續ニ於テハ入札拂ノ方法ニ依ルニハ利害關係人ノ申立ニ依リ之ヲ爲シ得ヘキ旨ノ規定アレトモ競賣法ハ單ニ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札ヲ爲スヘシト規定スルニ止マリ何人ノ申立ニ依ルヘキカラ明示セス隨テ競賣申立人ヨリ此申立アルヲ以テ足レリトスヘキヤ又ハ其他ノ利害關係人ノ中ヨリ申立アルモ可ナルヤ又ハ競賣申立人ヲ初メ利害關係人一同ヨリ此申立ヲ爲スコトヲ要スルヤノ疑ヲ生スヘシ

然レトモ按スルニ競賣手續ニ於ケル利害關係人カ實際何人ナルカハ必シモ競賣申立人ニ於テ知リ得ヘカナル事柄ナルカ故ニ入札拂ノ申立ヲ爲スニ付キ競賣申立人ト利害關係人トノ合意ノ申立ヲ必要トスルハ事實上不能ノ事ニ屬

ス然ラハ競賣申立人ヨリ何等ノ申立ナキニ拘ハラス他ノ利害關係人ノ或者ノミヨリ入札拂ノ申立ヲ爲シタルヲ採用スヘキヤト云フニ入札拂ヲフコトハ元來競賣申立ノ實行方法ニ屬シ此競賣ノ申立ナルモノハ多クハ申立人カ之ニ依テ自己ノ權利ヲ實行セントスルモノナルカ故ニ此者ノ同意ノ申立ナキニ拘ハラス他ノ利害關係人ノ申立ノミニ依テ入札拂ヲ爲スコトヲ許スノ穩當ナラサルコト勿論ナリ故ニ入札拂ヲ爲スニハ競賣申立人ノ申立アルコトヲ必要トスルヤ明白ナルヘシ而シテ利害關係人ノ何人ナルヤハ競賣申立人ニ於テ之ヲ知ルノ義務ナク又タ必シモ實際ニ於テ知リ能ハサル事柄ナルカ故ニ入札拂ノ申立ハ競賣申立人ノミヨリ其申立ヲ爲スヲ以テ足レリト論結セサルヲ得ス(尙ホ其申立ニハ印紙ノ貼用ヲ用ス—民事訴訟用印紙法第一〇條第一六條參照)

第三 入札拂ノ手續

入札拂ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外性質上採用シ得ヘキ限ハ競賣法所定ノ不動産競賣ノ規定ニ從フヘキモノニシテ(第三四條後段)入札期日ノ公告入札拂ノ實施ノ如キ入札調書ノ作成ノ如

キ入札期日後三日内ニ入札ニ關スル書類等ヲ裁判所書記課ニ提出シテ任務ノ卸任ヲ受クヘキ等ノコトモ亦競賣ニ關スル手續ニ從フ今入札拂ニ付キ特別ナル規定ヲ舉クレハ左ノ如シ

(甲) 各入札人ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ入札ヲ差出スヘク其入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 入札人ノ氏名及ヒ住所

二 不動産ノ表示

三 入札價額—此入札價額ニハ一定ノ金額ヲ記載スルコトヲ要ス他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表スル入札ハ之ヲ許サス例ヘハ最高入札價額ヨリモ一割高價ニ買入ルトノ如キ之ナリ)

以上ノ要件ヲ具備シタル入札ハ密封ノ上之ヲ差出スヘキモノトス(民事訴訟法第七〇三條第七〇四條)

(乙) 執達吏ハ入札期日ニ於テ特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シテ入札ヲ催告シ其後一時間ヲ經過シ殊ニ其期日ニ出頭シタル各入札人カ總テ入札ヲ爲

シ終リタリト認ムルトキハ各入札人ノ面前ニ於テ公然入札ヲ開封シ之ヲ朗讀スヘク適法ノ入札ニシテ且最高價ナルモノニ付キ最高價入札人トシテ其氏名及ヒ價額ヲ呼上ケ入札拂ノ終局ヲ告クヘキモノトス

但入札拂ニ在テハ二人以上同價額ノ入札ヲ爲スコトナキニ非サルヲ以テ此場合ニ於テハ執達吏ハ其同一價額ノ入札人ノミヲシテ更ニ追加價額ノ入札ヲ爲サシメ以テ其最高價入札人ヲ定ムヘキモノトス民事訴訟法第七〇四條

(丙) 最高價入札人トシテ呼上ケアリタル場合ニ於テ利害關係人カ其入札人ニ信用ヲ置カサルトキハ第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ此者ニ對シ保證ヲ立ランコトヲ求メ得ヘシ若シ其入札人ニシテ保證ヲ立テサルトキハ執達吏ハ最初ノ呼上ヲ取消シ次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人トシテ更ニ呼上ケヲ爲スヘキモノトス而シテ此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アルモノトス(民事訴訟法第七〇五條)

第八節 競落期日ノ開始附競賣並ニ競落ノ性質

競賣及ヒ入札ノ手續ハ執達吏ヲシテ之ヲ實施セシムルコト前陳ヘタルカ如クナリト雖モ不動産ノ競賣ニ在テハ動産ノ競賣ニ於ケルカ如ク執達吏ノ最高價ノ呼上ヲ以テ競落ト爲スヘキモノニ非スシテ之カ競落ハ專ラ裁判所ノ任ニ屬ス第一三條第二項第三二條參照

右陳フルカ如クナルカ故ニ競賣ノ方法ニ依リタルト入札拂ノ方法ニ依リタルトヲ問ハス競賣又ハ入札拂ノ手續終局セハ執達吏ハ之ヨリ三日内ニ其調書及ヒ記錄ヲ裁判所書記ニ引渡スヘク然ルトキハ裁判所ハ先キニ競賣期日ノ公告又ハ入札期日ノ公告中ニ指定シタル日時ニ競落期日ヲ開クヘキモノトス(第三二條民事訴訟法第六六〇條)

(注意競賣申立書競賣手續開始決定競賣申立登記記入囑託書按評價命令公課調命令登記所ヨリ廻附ノ登記簿謄本不動産評價書執達吏ノ公課調報告書競賣期日公告執達吏ニ對スル競賣ノ命令等ノ綴リ込ミアル競賣事件ノ記錄ハ競賣期日ノ開始前之ヲ競賣實施ノ任ニ當ルヘキ執達吏ニ交付シ以テ競賣ニ便ニス)

競賣法

不動產ノ競賣 競落期日ノ開始前競賣並ニ競落ノ性質

101

ノ性質ヲ有スルモノトス(同說ウ・ンド・シャ・イド)獨逸民法論第八版三〇八節註一五、尙ホ獨逸民法第一五六條參照石陳ヘタルカ如クナルヲ以テ利害關係人カ競落ノ許可ニ付キ異議ナシトノ陳述ヲ爲スモ是レ唯競落ノ許可ニ付キ異議ヲ申立タル能ハサルノ效力ヲ生スルニ止マリ競賣手續ニ於ケル買入ノ申込ニ對スル承諾ト觀ルヘキモノニ非ス又タ最高價競買人若クハ最高價入札人ハ利害關係人中ニ異議ナク且裁判所ニ於テ職權ヲ以テ競落ヲ拒ムヘキ理由存セタル場合ニ於テハ競落ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノ之單ニ競賣手續上裁判所ニ對シテ主張シ得ルニ止マリ利害關係人ニ對シ競落ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス蓋シ利害關係人中競落ニ關シテ異議ナシトノコトハ競買人若クハ入札人ノ申込ニ對スル承諾ニ非ナルコト前陳ヘタルカ如クナレハナリ又モイテ利害關係人ハ競賣之ヲ要スルニ競落許可ノ決定ハ既ニ競買人若クハ入札人ト利害關係人殊ニ物ノ所有者トノ間ニ異議ナキニ依リ既ニ成立セル買賣契約ヲ認許スルモノニ非ス後者並ニ競落ノ許可ヲ受ケタル買主トノ間ノ權利義務ノ一權原ニシテ其間ニ一ノ新ナル法律關係ヲ生セシムルモノナリ

◎書式第八號 競落期日ノ調書

調書

競賣申立人	何	某
債務者	何	某
不動產所有者	何	某
右當事者間ノ明治三十何年(何)第何號不動產競賣申立事件ノ競落ノ許可ニ付キ明治三十何年月日午前午後第何時當區裁判所ニ於テ		

判事	何	某
裁判所書記	何	某

列席事件ノ呼上ヲ爲シタルニ何某出頭競賣申立人ヲ初メ出頭シタル利害關係人ヲ表示スルコト利害關係人一同競落ノ許可ニ付キ異議ナキ旨陳述シタリ異議ノ申立アルトキハ其順末ヲ記載スルコトヲ要スルヤ勿論ナリ判事ハ別紙ニ通リ決定ヲ言渡シタリ

競賣法 不動產ノ競賣 競落期日ノ開始前競賣並ニ競落ノ性質

101

裁判所書記 何 某卿
判 事 何 某卿

(注意) 別紙ノ決定ハ競落許可又ハ不許可ノ決定ナリ書式第九號參照

第九節 競落許可ニ付テノ異議

利害關係人ハ競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付キ異議ヲ申立テ得ヘキコト前陳ヘタルカ如シ但其異議ハ競落期日ノ終ニ至ル迄申立テ得ヘキモノニシテ且左ニ掲クル理由ニ基クコトヲ必要トス(民事訴訟法第六七二條)

第一 異議ノ理由

一 競賣ヲ許スヘカラサルコト又ハ之ヲ續行スヘカラサルコト
競賣ヲ許スヘカラサルコトトハ實體法上競賣手續ヲ爲スヘカラサル場合ナルニ拘ハラズ競賣手續ヲ開始シタルトキノ如キ又タ裁判所ニ管轄權ナキ場合其他競賣申立カ形式上ノ要件ヲ具備セサル場合ヲ云ヒ次ニ競賣ヲ

續行スヘカラサルコトトハ競賣手續ノ開始後ニ於テ競賣申立人カ其申立ヲ爲スノ權利ヲ失フニ至レルカ如キ場合ヲ云フ

二 最高價競買人カ賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動產ヲ取得スル能力ナキコト

如何ナル者カ此能力ヲ缺クヤハ實體法ノ規定ニ依テ定マルモノトス未成年者禁治產者ハ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルカ如キ外國人ハ土地ノ競買人ト爲ル能ハサルカ如キ之ナリ

三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト 法律上ノ賣却條件ノ如何及ヒ此條件ノ變更ニ付キテハ上陳第五節ヲ參照スヘシ
四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
五 競賣期日ノ公告ヲ法律上規定アル方法ニ依リテ爲サザリシコト 民事訴訟法第六百六十條第六百六十一條ノ規定ヲ遵守セサル場合之ナリ

六 民事訴訟法第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト

七 同法第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト——即チ競買申出ノ催告ヨリ一時間ヲ經過セサルニ競賣ヲ終了シ又ハ最高價競賣人ノ氏名及ヒ其競買價額ヲ呼上ケスシテ競賣ヲ終了シタル場合之ナリ

八 同法第六百六十四條ノ規定ニ違背シテ最高價競買人ナリト呼上ケラレタルコト——即チ競買ノ申出ニ對シ利害關係人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立テタルニ拘ハラズ之ヲ立テシメスシテ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト之ナリ

上陳ヘタル理由中ノ一ニシテ存在スルトキハ利害關係人ハ競落許可ニ付キ異議ヲ陳ヘ得ヘシト雖モ自己ニ利害ノ關係ナキ場合ニ於テハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘカラス換言スレハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘカラス(民事訴訟法第六七三條例ヘハ債權者カ債務履行ノ期限ヲ猶豫シタリテフ如キ債務者ノ爲メニ存スル理由ハ利害關係人中債務者

ノミ之ニ基キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモ其他ノ利害關係人ハ斯カル理由ニ基キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘカラスカ如キ之ナリ

第二 裁判所ノ處分

裁判所ハ利害關係人ヨリ適法ナル異議競落期日ノ終ニ至ルマデニ前陳ノ理由ニ基キタルモノノ申立アリテ之ヲ正當ト認ムルトキハ其競落ヲ許スヘカラスアルモノトス(民事訴訟法第六七四條第一項)

又裁判所ハ利害關係人ヨリ異議ノ申立ナキモ前陳第一乃至第八ニ掲ケタル理由ノ一カ存在スト認メタルトキハ職責上競落ヲ許スヘカラスアルモノトス

(甲) 但前陳異議ノ理由中ニハ苟モ該理由ノ存スルトキハ常ニ競落ヲ許スヘカラスアルモノト或條件ノ具備スル場合ニ於テノミ職權ヲ以テ競落ヲ許ササルノ決定ヲ爲スヘキモノトアリ(民事訴訟法第六七四條第二項)

一 常ニ職權ヲ以テ競落ヲ許スヘカラスアルハ前陳第四乃至第八ノ理由ノ存スルトキナリ

二 或條件ノ存スルトキニ限リ職權ヲ以テ競落ヲ許ササルモノハ左ノ如シ

競賣法 不動産ノ競賣 競落許可ニ付テノ異議

競賣法 不動産ノ競賣 競落許可ニ付テノ異議

一〇八

- (イ) 前陳第一ノ場合ニ於テハ競賣ニ付シタル不動産カ譲渡スコトヲ得サルモノナルトキ例ヘハ華族ノ世襲財産ナルトキノ如シ(世襲財産法第一三條)
- (ロ) 前陳第二ノ場合ニ於テハ競買人カ賣買契約ヲ結ビ若クハ不動産ヲ取得スル能力若クハ資格ノ欠缺カ競落期日ニ至リテモ尙ホ依然存在スルトキニ限リ職權ヲ以テ競落ヲ許ササルモノトス隨テ若シ競落期日ニ於テハ既ニ右ノ能力若クハ資格ヲ享有スルニ至リタルトキハ職權ヲ以テ競落ヲ拒ムコトヲ得ヘカラス
- (ハ) 前陳第三ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ全體カ變更セラレタル賣却條件ニ依リ手續ヲ續行スルコトヲ承認シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落不許可決定ヲ爲スコトヲ得ヘカラス蓋シ賣却條件ハ最低競買價額等ヲ除ク外ハ各利害關係人ノ合意ニ依リ變更シ得ヘキモノアルコト前陳ヘタルカ如クナレハナリ

(乙) 又競落許可ニ付テノ異議ノ理由中ニハ其理由ノ存スルニ於テハイカナル場合ニ在テモ競落ヲ許ササルモノト又タ其競買手續ニ依ル競落ノミヲ許ササ

ルニ過キササルモノトアリテ若キハ其理由ニ依リ競落ノ許可ヲ得ルモノト前陳第一ノ場合ニ於テハ競賣ヲ許スヘカラスアルコトノ理由アル場合ハ前陳第二ノ場合ニ於テハ競賣ヲ許ササルトキニ於テハ競落ヲ許可セス且競賣不許可申立ハ之ヲ却下スル旨ノ決定ヲ爲スハ其理由ニ依リテ隨テ競買手續ハ此決定ニ依リ結局ヲ告タヘキモノナリ(組合ニ對シテ當利利益等ハ其理由ニ依リテ前陳第二以下ノ異議ノ理由アル場合ニ於テハ單ニ其競賣ニ基クテ競落ヲ許ササルニ止マリ裁判所ハ競落不許可決定ヲ爲シタル後更ニ競賣ヲ爲サシムル爲メ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ指定スヘキモノトス而シテ此新競賣期日ハ競落不許可決定後少クモ十四日後タルヲ要ス(民事訴訟法第六七六條)右陳ヘタル競落許可ニ付テノ異議ニ關スル手續ハ入札拂ヲ以テ不動産ヲ賣却スル場合ニ準用セラルヘキモノトスハ東京競賣法施行規則第三十條ニ依リテ

第十節 競落許可ノ決定

競賣ノ方法ニ依リタルト入札拂ノ方法ニ依リタルト問ハス裁判所ハ競落期

競賣法 不動産ノ競賣 競落許可ノ決定

一〇九

競賣法 不動產ノ競賣 競落許否ノ決定

◎ 書式第九號

競落許可決定

競落許可決定

競賣法 不動產ノ競賣 競落許否ノ決定

競賣法 不動産ノ競買 競落許可ノ決定

一二

不動産ノ表示

何市區町何番地所在

木造瓦葺平家

一棟

建坪何坪也

右不動産ヲ競賣ニ付シタル處某所何某ハ最高價金何圓ノ申出ヲ爲シタルニ依リ同人ニ競落ヲ許可ス

明治三十何年 月 日

何區裁判所

判事

何 某

第二 競落不許可ノ決定

此決定ハ競落許可ニ付テノ異議ノ原由アルカ又ハ其他ノ事由アルニ依テ爲ナル競落ヲ許サストノ裁判ニシテ是等ノ原因ナキ場合ニ於テハ總テ競落許可

「ア」ハ氏又ハ「シ」ミット氏等ノ民事訴訟法教科書中訴訟事件ト非訟事件ノ區別ヲ論スル處參照ノ價值アリ

(四)裁判例 各裁判所殊ニ地方裁判所控訴院ノ判例ハ常ニ注意スルヲ要ス(非訟事件ハ主トシテ區裁判所ニ於テ取扱フモノナルヲ以テ大審院マテ再再抗告スル場合尠ケレハ同院ノ裁判例ハ多カラス)

我國ニハ此種ノ裁判例ヲ彙集シ秩序のニ編纂シタルモノナシ獨逸ニ於テハ昨年春期發刊ノ前記二雜誌ニ同法施行以來ノ判例要旨ヲ秩序のニ彙集シタルモノアルモ未タ一勞トシテ出版セラレタル物アルヲ聞カス

第一編 總則

余輩ハ非訟事件手續法ヲ總則及ヒ各論ノ二編ニ分テテ講述スヘシ而シテ本編ノ規定ハ緒論ニ於テ述ヘタルカ如ク裁判所ノ管轄ニ屬スル一切ノ非訟事件ニ適用スヘク獨リ本法ニノミ適用スヘキモノニ非サルモ余輩ノ講義ハ非訟事件手續法ナルヲ以テ繁ヲ厭ヒ引照等主トシテ之ヲ同法ニ採リ必要ナル

非訟事件手續法 總則

二五

場合ニ限リ他ヲ摘示スルニ止ム讀者怪ム勿レ

第一章 裁判所

裁判所ノ地位並ニ構成及ヒ裁判權等ノ講究ハ之ヲ國法學及ヒ民事訴訟法ノ講義ニ譲リ茲ニハ唯非訟事件ニ關シ必要ナル範圍内ニ於テ説明スルノミ余輩ノ民事訴訟法講義第一編第一章ヲ參照セラレタシ

第一節 非訟事件ノ裁判權

憲法第五十七條ニ曰ク司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フト裁判所ハ司法權ヲ行使スル國家機關ノ一ナリ司法トハ法律ノ維持ヲ目的トシ各箇ノ事件ニ對シテ法令ヲ適用スルニ在リ司法權トハ實ニ裁判ヲ爲スノ權ニ外ナラス此意義ヨリ謂ヘハ行政裁判權モ亦司法權ノ一ナルモ國家ノ裁判權ハ民事刑事ニ於テ最モ早ク發達シタルト司法ト行政トノ範圍ヲ嚴格ニ限制スル必要トニ因リ司法權トシ謂フハ民事刑事ノ裁判權ヲ指稱シ行政裁判權ヲ

如キハ之ヲ含マサルモノト爲セリ憲法第五章第五十七條第六一條裁權法第二條民事刑事ヲ裁判スル裁判所ニ通常裁判所ト特別裁判所トアリ非訟事件ハ普通裁判所ニ之ヲ委任ス裁權法第一五條第一七條第二九條第三〇條第三七條第三九條第五〇條第五二條非訟事件手續法抑文化勸進ミ人事益繁ニ赴クヤ民事刑事ノ外私法關係ノ所在ヲ明確ニスル必要ヲ生シ茲ニ於テカ非訟事件ナルモノ發達スルニ至レリ元來非訟事件タルヤ其性質必スシモ裁判ヲ必要トスルモノニ非ス私法關係ヲ明確ニスルニハ公證登記監督等ノ如キ事實上ノ行爲却テ其主ニシテ裁判ノ如キハ從タルニ過キス故ニ非訟事件ハ行政官廳ノ手ニ之ヲ委スルモ敢テ司法ト行政ノ畛域ヲ亂スモノト謂フヘカラス然レトモ非訟事件カ國家ノ私法事務ノ一ナルト裁判所ノ信用トハ之ヲ行政官廳ニ委テシヨリハ寧ろ通常裁判所ニ委任スルヲ便ナリトシ裁判所ノ管轄ニ屬スハ非訟事件ハ次第ニ其數ヲ増加スルニ至レリ第一章第二節裁判所ノ管轄

非訟事件ヲシテ既ニ通常裁判所ニ屬セシメタル以上ハ元ト國家ノ私法事務ノ一ナルヲ以テ刑事裁判所ニ屬セシムヘキモノニ非サルヤ論ナシ之ヲ以テ非訟

事件ノ裁判ハ當然民事裁判所ニ委任シテ之ヲ行ハシム故ニ其裁判權ハ亦民事裁判權ノ發動ノ一タルハ疑ヲ容レザル所ナリトス民事裁判權ノ何者ハ余輩ノ民事訴訟法講義第一編第一章第二節ヲ參照セラレタシ

第二節 裁判所ノ構成

裁判所ノ構成トハ裁判所ノ組織權限及ヒ裁判所職員ノ組織ヲ云フ之ニ内外ノ區別アリ内部ノ構成トハ裁判所及ヒ裁判所職員ノ組織ヲ云ヒ外部ノ構成トハ裁判所ノ職務權限ヲ云フニシム

第一款 裁判所内部ノ構成

第一項 裁判官廳

一定ノ範圍内ニ於テ國家ノ事務ヲ處理スル國家ノ機關ヲ官廳ト云フ裁判所ハ國家事務ノ一ナル裁判事務ヲ司掌スル國家ノ機關ナルヲ以テ亦一ノ官廳ナリトス

官廳ハ一人ヲ以テ組織スルコトアリ又數人ヲ以テ組織スルコトアリ前者ヲ單獨制ト云ヒ後者ヲ合議制ト稱ス而シテ裁判所ノ組織ハ此兩制ヲ併有ス故ニ裁判所ノ組織ニハ單獨制アリ又合議制アリ

第一單獨制裁判所 區裁判所ハ唯一ノ單獨裁判所ナリトス(裁標法第一一條第一項故ニ裁判所ヲ構成スル判事ハ一人ナルヲ以テ裁判所構成法非訟事件手續法民事訴訟法中裁判長ニ屬スル職務權限ハ該判事ニ屬スルモノトス)

第二合議制裁判所 地方裁判所控訴院大審院ハ總合議裁判所ナリトス(裁標法第一九條第一項第三四條第一項第五三條)

合議裁判所ノ各部ノ事務ニ付テハ一定ノ手續ヲ單獨ノ判事ニ委任スルコトアレトモ合議裁判所ノ裁判ニ付テハ部ノ判事全員ノ決議ヲ要ス

第二項 裁判所ノ職員

裁判所ノ職員ハ左ノ如シ

第一判事 判事ハ總然タル一切ノ裁判事務ヲ司ル職員ナリトス

非訟事件手續法 裁判所裁判所ノ構成

第二 裁判所書記

裁判所書記ハ左ノ職務權限ヲ有ス

(イ) 調書ノ作成(本法第一四條、第八條、民訴第一三五條、本法第五〇條、第五一條)

第二項、五四條、第一一四條

(ロ) 書類ノ送達 非訟事件手続法ニハ何等ノ規定ナキモ裁判所カ其裁判ヲ

送達ノ方法ニテ告知スルコトヲ命スル場合裁判所カ期日ノ呼出ヲ送達ス

ル場合ノ如キハ民訴一三六條ニ依リ書記ノ職務ニ屬スヘキモノトス

(ニ) 期日ノ呼出(本法第一〇條、民訴第一六一條)

(三) 裁判ノ正本及ヒ謄本ノ認證(本法第一七條、第三項)

(ホ) 告知ノ方法、場所及ヒ年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記スルコト(本法第一八條

第三項

以上ノ諸點ニ付テハ裁判所書記ハ獨立ノ職務權限ヲ有スルモノナリ

第三 執達吏 執達吏ハ執行ノ機關ニシテ強制執行ヲ實施スル職員ナリ裁

法第九條、本法第三一條、第二〇八條、民訴第五三一條、獨逸ニ於テハ執達吏ハ亦送

達ノ機關ナレトモ我民事訴訟法ノ下ニ於テハ執達吏ハ書類ノ送達ヲ書記ノ委

任ニ因リテ施行スルモノナレハ獨立ノ機關ニ非ス彼ノ郵便配達人ト同ク一ノ

送達吏ニ過キス(民訴第一三六條)

第四 檢事 檢事ハ公益ノ代表者ナルヲ以テ民事訴訟ニ於テモ必要ナリト認

ムルトキハ通知ヲ求メ其意見ヲ述フルコトヲ得ルノミカラス(裁構法第六條、公

益ニ關スト認メタル事件ニ付テハ之ニ立會フコトヲ命セリ(民訴第四二條、人事

訴訟手續法參照)而シテ非訟事件ハ概シテ一箇人ノ利害關係ノミニ止マラス

延テ公益ニ關スル場合多キヲ以テ檢事ヲシテ之ニ關與セシムル場合極メテ多

シキ事ナリ(註)非訟事件ニ關スル申立及ヒ執行ノ請求ハ之ニ依リテ爲ス

(一) 檢事ハ非訟事件ニ付キ自ラ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立

會フコトヲ得ルコト(本法第一五條、第一項)但保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル

非訟事件ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ(本法第八八條、八項)

然レトモ本法第十五條第一項ハ意見ヲ述ヘ又ハ立會フコトヲ得ルコトヲ規

定セルノミ故ニ檢事カ意見ノ陳述、審問ノ立會ヲ必要ト認メサルトキハ之ヲ

爲ササルコトヲ得ルハ勿論必要ト認メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ノ陳述又

- ハ審問ニ立會ナキモ毫モ手續上違法ニ非ス而シテ本法第八十八條ハ法律上
 檢事ノ意見及ヒ立會ヲ要セスト認メタル場合ナリ
- (二) 裁判所ノ求ニ因リ意見ヲ述フルコト(本法第一三四條第二〇七條)
- (三) 封印手續ニ立會フコト(本法第四六條第五一條第六八條)
- (四) 檢事ハ其職務上裁判所ニ對シ非訟事件ニ關スル裁判ヲ請求スヘキコト
 非訟事件ノ裁判ハ主トシテ利害關係人ノ申立ニ因リ之ヲ爲スラ通則トスル
 モ法律上檢事ニ對シ非訟事件ニ關スル申立ヲ裁判所ニ爲スヘキコトヲ命ス
 ル場合アリ此場合ニハ裁判所ハ其請求ニ因リテモ亦裁判ヲ爲ササルヘカラ
 ス是レ事ロ公益ニ關係ヲ有スル事件ニシテ其場合左ノ如シ
- 甲 法人及ヒ會社ニ關スル事件
- (イ) 財團法人ノ設立者カ其名稱事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ
 死亡シタルトキ(民法第四〇條)
- (ロ) 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ノ爲メ損害ヲ生スル處アルトキ(民法
 第五六條)

- (ハ) 法人ト理事トノ利益相反スル事項(民法第五七條)
- (ニ) 民法第七十四條ノ規定ニ依リテ清算人タルモノナキトキ又ハ清算人
 ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル處アルトキ(民法第七五條)
- (ホ) 清算人ヲ解任スヘキ重要ナル事由アルトキ(民法第七六條)
- (ヘ) 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲サ
 サルトキ(商法第四七條)
- (ト) 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ(商法第
 四八條)
- (チ) 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務
 ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ(商法第二
 六〇條)
- (リ) 政府ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ムモノアルトキ(商法施行法第九
 五條)
- (ス) 保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其營業ノ繼續困難ナルト
 非訟事件手続法 總則 裁判所 裁判所ノ構成

キ又ハ保險會社カ政府ノ命令ニ違反シタルトキ(同法第一〇二條第二項)
(ル) 商法施行前ニ設立シタル會社ニシテ商法施行法第九十七條ニ禁止シ
タル兼業ヲ爲シ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其兼業ヲ廢止セザルトキ
(同法第一一〇條第二項)

乙 財産管理ニ關スル事件

- (イ) 從來ノ住所若クハ居所ヲ去リタル者カ其財産ノ管理人ヲ置カザリシ
トキ本人ノ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキ又ハ本人カ後日ニ至
リ管理人ヲ置キタルトキ(民法第二五條)
- (ロ) 不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサル
トキ(民法第二六條)
- (ニ) 不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ不在者ノ置キタル管理人ニ其
管理スヘキ財産ノ目錄ヲ調製スヘキコトヲ命スルトキ(民法第二七條)
- (ホ) 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡
カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキ本法第五九條第六八條)

- (ホ) 無價ニラ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ
管理セシメサル意思ヲ表示シタルノミニテ其管理者ヲ指定セザリシト
キ又ハ右第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅
シ又ハ之ヲ改任スル必要アルトキ(民法第八九二條)
- (ヘ) 推定家督相續人ノ廢除若クハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前
ニ相續カ開始シタルトキ又ハ廢除ノ遺言アリタルトキ(民法第九七八
條)
- (ト) 相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ求ムルトキ(民法第一〇二一條第二
項)

(チ) 相續人アルコト分明ナラサル場合ニ於テ相續財産ノ管理人ヲ選任ス
ルトキ(民法第一〇五二條第一項)

丙 親族會ニ關スル事件

民法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキトキ(民法第九四四條)

丁 相續ノ承諾及ヒ拋棄ニ關スル事件

相續人ノ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ期間ニ付キ伸長ヲ求

ムルトキ(民法第一〇一七條)

(五) 檢事カ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコ

トヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘキコト(本法第一六
條)蓋シ管轄裁判所ノ檢事ハ時トシテ自己カ裁判ヲ請求スヘキ事件ノ發生

セルコトヲ知ラサルコトアレハナリ

(六) 檢事ハ書類ヲ閱覽スルコトヲ得ルコト(本法第四二條第五七條第六八條)

(七) 檢事ハ異議ノ申立ヲ爲シ得ルコト(本法第五二條第五九條)

(八) 檢事ハ裁判ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルコト(本法第九一條第九二條第九五條、

第一〇一條、第一〇二條、第一一〇條、第一三五條、第二〇七條)

(九) 檢事ハ過料ノ裁判ノ執行ヲ爲スヘキコト(本法第二〇八條)

檢事ハ斯ノ如ク各種ノ非訟事件ニ付テ申立又ハ抗告ヲ爲シ得ルモ固ヨリ利害
關係人ニ非ス唯檢事タル職務ヲ以テ爲スヘキモノナレハ手續ノ費用ハ檢事ハ
申立タル場合ニ限り國庫ノ負擔トセリ(本法第二六條)

公證人ノ住居ハ願ニ由ルモノト指定ニ由ルモノトアリ公證人カ受持區内ニ於
テ住居セントスル町村ヲ定メタルトキハ其旨ノ願書ヲ始審裁判所ニ提出シ檢
察院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請ハサル可カラス所長及院長ハ住居願ニ相當ナ
ル意見ヲ附シ司法大臣ニ送達ス可ク司法大臣ハ其意見ニ徴シ其願ヲ相當トス
ルトキハ之ヲ認可ス願ニ由ル住居是ナリ若シ司法大臣ニ於テ住居願ヲ相當ト
爲ササルトキハ之ヲ認可セサルニ止マラス直チニ進ンテ其住居ス可キ町村ヲ
指定ス指定ニ由ル住居是ナリ之レ住居ハ私人ニアツタモ必要ニシテ殊ニ公證
人ニアツタハ役場即チ職務執行トノ關係上一日モ缺ク可カラサルモノナレハ
ナリ

公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セント欲ス
ルトキハ前述ノ手續ニ從ヒ司法大臣ノ認可ヲ受ケサル可カラス而シテ法律カ
居住ノ自由ヲ制限シタル精神ヨリ考フレハ轉居ヲ許可スル事故トハ火災若シ
タハ之ニ均シキ事故ニシテ到底居住ニ堪ヘサル狀態ニ在ルヲ要ス可ク之カ認
定ハ全ク事實ノ問題ニ屬スルモノトス

住居ノ制限ハ之ヲ狹義ニ解ス可カラス公證人ト雖モ絶對的ニ居住ノ自由ヲ剝奪セラレタルモノニ非ラズ區内ニ於テ司法大臣カ認可シタル町村内ニ於テハ隨意ニ移轉シ得可ク其認可ハ町村ノ全區域ニ涉リテ有效ナルモノトス何トナレハ町村内ニ於テ移轉スルモ法律カ住居ノ制限ニ因リテ保護セントスル公私ノ利益ニ何等ノ障害ヲモ與ヘサレハナリ故ニ公證人カ認可町村内ニ於テ甲ヨリ乙ニ移ルモ乙ヨリ丙ニ轉スルモ其任意ニシテ制限外ニアル可キナリ

公證人カ職務ヲ執行スル場所ヲ役場ト云フ役場ト住所トハ離ル可カラサル關係ヲ有スルモノニシテ公證人規則ニ依レハ公證人ハ其居宅ニ役場ヲ設ケサル可カラス又管轄裁判所ノ認可アルニ非サレハ役場以外ニ住居スルコトヲ得スト定メタルカ故ニ是ニ於テカ公證人ノ住所ニ二箇ノ意義ヲ生ス即チ一面ニ於テハ私人トシテノ生活ノ本據タル住居ヲ有シ他ノ一面ニ於テハ公證人タル資格ニ於テ其職務ヲ執行スル場所即チ役場ヲ爲スコト是ナリハ其職務ヲ執行スル公證人ハ其職務ヲ自己ノ役場ニ於テ行ハサル可カラス其職務ハ公正證書ノ作成ニアリテ其發生ヲ維持スル爲メニハ其作成ノ場所ヲ制限スルコト甚タ必要

ナレハナリ然レトモ已ムヲ得サル事件例之瀕死者ノ枕頭ニ臨ンテ其遺言ヲ筆記スルカ如キハ役場ニ於テ之ヲ爲サシムルハ殆んど不可能ニ屬スルヲ以テ役場以外ニ於テ作成スルコトヲ許シタリ但シ此ノ場合ニアリテモ其作成ノ場所ハ職務ヲ行フ公證人ノ受持區内タルコトヲ要ス而シテ此ノ如キハ例外ニ屬スルカ故ニ狹義ニ解釋セサル可カラスシテ公證人規則第四條第二項ニハ已ムヲ得サル事件トアリテ已ムヲ得サル事由ニアラサルヲ以テ其事件ノ性質上何レノ公證人ナリトモ役場外ニ於テ職務ヲ執行スルノ已ムヲ得サルモノト解釋セサル可カラス若シ囑託セラレタル公證人ノミニ限ル箇人の故障ノ爲メニ役場外ノ作成ヲ餘儀ナクセラルル場合ノ如キハ單ニ已ムヲ得サル事由タルニ止マリ已ムヲ得サル事件ニアラス從テ此場合ニアリテハ役場外ノ作成ヲ許ササルモノトス

公證人ハ人民ノ囑託ニ應シテ職務ヲ執行ス可ク而シテ其職務ハ前ニ述ヘタルカ如キモノヲ除キテハ悉ク其住居タル役場ニ於テ之ヲ執行ス可キモノトス故ニ公證人ハ其住居ニ付キ一方ニ於テ認可町村外ニ隨意ニ移轉スルヲ得サルモ

ノトシテ居住ノ自由ヲ制限セラルト共ニ他ノ一方ニ於テハ人民ノ委嘱ニ應
スルカ爲メ認可町村内ニ於ケル一定ノ役場ニ居住ス可キ義務ヲ負擔スルモノ
ナリ從テ正當ナル理由ナクシテ其住居(役場ニ在ラサルトキハ其職務上重大ナ
ル義務ニ違反スルモノト云フ可シ而シテ義務違反タルニハ其不在カ必スシモ
永久タルコトヲ要セス假令暫時ナリトモ一定ノ時期繼續シ且ツ其不在ニ正當
ナル理由ナク爲メニ依嘱者カ其職務ヲ違スルニ由ナカリシコトヲ要ス一言以
テ蓋ヘハ不在カ當該公證人ノ過失ニ基クカ又ハ少クトモ其不注意ニ基クトキ
ハ其不在ヨリ生スル責任ハ公證人之ヲ負フ可キモノトス例之私用ノ爲メ若シ
タハ傳染病ヲ避タル爲メ不在ナリシカ如キハ正當ノ原因ト言フコトヲ得ス之
ニ反シテ兵役其他公務ノ爲メ不在ナルトキハ其不在ハ正當ナル理由ニ基クモ
ノト言フ可シ然レトモ人民ノ委嘱ハ一日モ空シウスルコトヲ得スシテ公證人
カ正當ナル理由ニ依リ不在ナルトキト雖モ其事實ハ到底人民ノ知得スル限ニ
非サルヲ以テ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄地方裁判所ニ其旨ノ届出ヲ爲ス
ニ非サレハ當該公證人ハ其不在ヨリ生スル責任ヲ免カラルコトヲ得サルノミ

ナラス却テ過料ノ制裁ヲ受ク可キモノトス
此ノ如ク一定ノ役場ニ住居シテ其職務ヲ行フハ公證人ノ重要ナル義務ナリト
雖モ反面ヨリ觀察スルトキハ其ノ受持區内ニ於テハ區外公證人ノ職務執行ヲ
排斥シ得ルカ故ニ又其權利ト爲スコトヲ得抑モ公證人ノ員數及住居ノ自由ヲ
制限スルハ各自ノ利益ヲ保護シ公正誠實ニ職務ヲ執行セシムルノ趣旨ニ出テ
タルモノナレハ若シ公證人カ其認可町村外若シタハ其住居タル役場外ニ於テ
職務ヲ行フトキハ其執行地附近ノ公證人ハ利益ヲ減損セラル可ク其結果ハ後
者ノ權利毀損タルカ又ハ少クトモ前者ノ權利ノ適當ナル行使ト言フニ至ラン
即チ各公證人ハ其受持區内ニ於テ職務ヲ執行スル權利ヲ有シ互ニ受持區ヲ侵
犯スルコトヲ得サルカ故ニ前述ノ如ク一面ニ於テハ其義務ヲ遵守シテ受持區以
外ニ住居ヲ設ケテ定時又ハ臨時ニ人民ノ委嘱ヲ受ク可カラサルノ義務アリ略
言スレハ一人ノ公證人カ職務ヲ行フ場所即チ役場ハ一箇ニシテ二以上アルコ
トナシ何トナレハ役場ハ住所ト一致シ各人生活ノ本據ハ一箇タル可キモノナ

レハナリ殊ニ認可町村外ニ於テ更ニ役場ヲ設ケルカ如キハ他ノ公證人ノ權利ヲ侵害ス可ク又員數ヲ制限シ受持區ヲ制定シタル立法ノ精神ニ背馳スルコト大ナレハナリ

公證人ノ役場ハ職務ヲ執行スル場所ニシテ公證人ノ行為ハ役場ニ於テ執行スルニ依リ適法タル可ク又役場モ公證人カ定住ノ意思ヲ以テ居住シ當時並ニ於テ職務ヲ執行スルニ依リ始メテ役場タリ從テ已ムヲ得タル事件ニ付キ臨時職務ヲ執行シタレハトテ其場所ハ一回ノ職務執行ニ依リ直チニ役場トナルモノニ非ス又寧ロ幾回職務ヲ執行スルモ役場トナラサルナリ之レ公證人規則ニ於テ已ムヲ得サル事件ニ付テハ役場外ノ職務執行ヲ許シタル點ヨリ見ルモ明カニシテ從テカカル場所ニハ後示ノ如キ設備ヲ要セス又若シ一步ヲ讓リテ役場トナルモノトセハ一公證人カ假令暫時ナリトモ二箇以上ノ役場ヲ併有スルニ至リ前ニ説明シタルカ如キ不都合ヲ見ル可ク且ツ法文ニ所謂役場外ノ執行トハ沒意義ニ陷リ明文ニ於テ役場外ノ執行ヲ特ニ許容スルノ必要ナキニ至ル可ケレハナリ

公證人ハ其居宅ニ役場ヲ設置セサル可カラス然レトモ役場ハ居宅ノ一部分ニテラス假令實際上住宅ノ一部ヲ限リテ職務執行ノ場所ニ充テ他ノ部分ハ其住居ニ充ツルヲ通例トスレトモソハ事實カクアルニ過キスシテ法理上公證人ハ其居宅ニ役場ヲ設ケ可ク役場内ニ住居ス可キ旨ヲ規定シタル點ヨリ見レハ住宅ト役場トハ將サニ一致ス可キモノタリ而シテ居宅ノ狹隘等ノ事情ヨリ其致テ遂ク然レトモ一大除外例ナルヲ以テ管轄地方裁判所ノ認可ヲ得サル可カラストセリ

役場ニハ特ニ依屬者ニ知得シ易カラシムル爲メ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ケ可シ而シテ公正證書ノ原本其他書類ノ本書ハ役場ニ保存ス可ク當該公證人ニ其保管ノ責任ヲ負ハシムルカ故ニ書類ハ總テ常ニ書籍ニ藏メ非常ノ事變アルニ際シ持退シ得ラル可キ準備ヲ爲シ置ケ可ク加之役場ニハ倉庫若シタハ堅牢ナル建物ヲ設備シ以テ書類保存ノ場所ト爲スコトヲ要ス之レ公證人カ書類保管ノ責任ヲ有スル當然ノ結果ナリトス

第五章 公證人ノ受持區

公證人ハ各區裁判所ノ管轄地ヲ一區域トシテ全國ニ分配セラレ其區域内ニ於
テノミ職務ヲ執行ス可キモノトス此區域カ即チ職務執行ノ範圍ニシテ受持區
ト稱スルモノナリ凡ソ公證人ノ職務ハ皆同一ニシテ甲ノ爲シ得ル所乙之ヲ爲
シ得サルコトナシ從テ各審級裁判所ノ管轄ノ如ク事物ニ基キテ區域ヲ設クル
コトヲ得ヌ又彼ノ佛國ニ於テ嘗テ存シタルカ如キ貴族僧侶及人民ニ各專屬ス
ル公證人ノ階級ノ如キハ我國法律ノ認メタル所ナレハ人ニ基キテ職務執行ノ
範圍ヲ設クルコトヲ得ス然ルニ公證人ノ否認ヲ維持スルニハ其收益ヲ確保ス
ルヲ必要トシ從テ相互ニ侵害セサルヤウ一定ノ範圍ヲ設定スルコトカ此目
的ニ合シ兼テ秩序ノ維持及公正誠實ノ履行ニモ便宜ナルヲ以テ茲ニ土地ニ基
キ各區裁判所ノ管轄地ヲ一區域トシテ職務執行ノ範圍ト爲シタリ既ニ其受持
區ハ人ニ基クモノニ非サルカ故ニ區外人ノ爲メニモ其委嘱ニ應ジテ職務ヲ行
フヲ得トシ囑託人カ受持區ニ居住スルト否トハ職務ノ執行ニハ何等ノ影響モ

ナキナリ然レトモ土地ニ基クモノナルカ故ニ一步ニテモ受持區外ニ出ツレハ
直チニ公證行爲ヲ爲スコトヲ得ス此故ニ普通ノ事件ハ區内ノ役場ニ於テ取扱
フ可ク已ムヲ得タル事件ハ役場外ノ取扱ヲ許スト雖モ尙ホ區内ニ於テ之ヲ爲
ス可キヲ定メタルナリ而シテ公證人ノ職務執行ノ範圍ヲ受持區ト稱スルハ其
區域内ニ於ケル公證事務ヲ擔當スルノ謂ニシテ其區域内ノ人民ニ對シテ何等
ノ施設ヲモ爲スニアラサルカ爲メナリ其職務執行ノ範圍ハ其區域内ニ於
ケル公證人カ適法ナル囑託ヲ受ケタルトキハ之ヲ執行スルノ義務アリ正當ノ理由
ナクシテ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス之レ其職務カ公職タルノ結果ナリ故ニ若シ
囑託ヲ不當トシテ拒絕シタルトキハ囑託人ノ請求ニ因リ其理由ヲ記シテ之ヲ
交付ス可ク囑託人ハ理由書ニ因リテ其拒絕ノ當否ヲ判斷シ若シ拒絕ヲ不當ト
スルトキハ抗告狀ヲ當該公證人ニ差出シテ其處分ニ對シ管轄地方裁判所ニ抗
告スルコトヲ得ルコトハ公證人ノ義務ニ屬スルモノナリ其抗告狀ハ公證人カ如シ
公證人ハ其受持區内ニ於テノミ公證行爲ヲ爲シ得ルコト前ニ述ヘタルカ如シ
故ニ受持區外ニアリテハ一私人ト同一ニシテ公證行爲ヲ爲シ得サルハ勿論假

令之ヲ爲スモ其公正證書ハ法律上何等公正ノ效力ヲ發生セサルモノナリ然レトモ公證人ノ職務モ其著手ヨリ完成ニ至ル迄種種ノ順序アル故ニ受持區外ニ於テ職務ヲ執行スルコト能ハストハ全部不能ナルカ又ハ其職務中如何ナル部分カ不能ナルカ少シク説明ヲ要スル點ナリ學者或ハ論シテ曰ク若シ公證人カ證書作成前受持區内ニ於テ囑託者ヨリ契約ノ趣旨ヲ聽取シ又ハ之ヲ手控ニ記入スルコトアラシカ其趣旨ハ其後受持區内タル役場ニ於テ適法ニ證書トシテ作成セラルルトモ職務ノ一部カ既ニ不適法ニ執行セラレタルカ故ニ其證書ハ公正ノ效ナカル可キナリト然レトモ此ノ如キハ頗ル狭キニ失スルモノト云ヨリ約旨ヲ聽取ルカ如キハ事前ノ行爲ニ過キス公證人自ラ爲ササルモ可ナルモノニシテ職務トシテ何等ノ關係ナキモノナリ故ニ證書カ受持區外ニ於テ作成セラレタル場合ノミカ公正ノ效ナキモノナリト然レトモ此ノ如キハ頗ル寬シ失スルモノニシテ到底嚴正ヲ貴フ公正證書ノ性質ト相容レサルモノト云フ可シ於是乎折衷說ヲ生ズ即チ公證人ノ職務ニモ公正證書ノ成立ニ必要ナル形式

ニ屬スルモノト單ニ其成立ノ準備行爲ニ止マルモノトアリ後者ハ其執行カ受持區ノ内外何レニアラフ間ハス公正證書ノ效力ニ毫モ影響ナシ例之當事者ノ陳述ノ如シ何トナレハ此ノ如キハ何處ニ於テ之ヲ爲スモ差支ナカル可ク法律カ公正ノ效ヲ認ムルハ陳述其自身ニ非スシテ寧ロ其記載ニアルカ故ニ公證人カ惡意ヲ狹ミテ之ヲ偽造スルニ非サル限りハ不安ヲ惹起スル虞少ナシ反之成立要件タル形式例之當事者ノ署名捺印ノ如キニアリテハ法定ノ場所ニ於テ爲ササレハ動モスレハ紛紜ヲ醸シ易シ從テ此等ハ受持區内ニ於テ執行セラル可キ性質ノモノニ屬シ若シ然ラサルトキハ其證書ハ公正ノ效ナキモノナリ然レトモ公證人ト雖モ私人ニ屬スル行爲ヲ爲シ能ハサルニ非サルカ故ニ該證書カ更ニ私署證書トシテノ效力ヲ留保シ公證人ニ屬スル記載ハ無用ナル文言トシテ效力ヲ生セサルニ止マル可キ乎ハ講究ヲ要スル問題ナリトス公證人ノ受持區ハ相侵スコトナキヲ要ス若シ此區域ヲ無視シテ擅ニ其職務ヲ行ハシカ公證人間ニアリテハ品性ノ墮落ヲ惹起ス可ク證書ニ付キハ私擅不正族生ス可ク遂ニ公證制度モ其良好ナル美果ヲ收ムル能ハサルニ至ラン之ヲ以

ヲ違犯者ニ對シテハ懲罰ヲ規定シ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス可キモノト爲シタリ

第六章 公證人ノ職務執行

公證人カ其職務ヲ執行スルニハ法定ノ役印ヲ作り法定ノ封紙ヲ用ヒ且ツ筆生ヲシテ書類作成ノ補助ヲ爲サシムルヲ得ク又已ムヲ得サル事故アルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ依頼スルコトヲ要ス

公證人ニ證書ヲ作成セシメ以テ之ニ民事上完全ナル證據力ヲ附與スルハ蓋シ其證書カ嚴正ナル形式ヲ履行シ其作成ニ付キ詐謀偽造ノナカル可キコトヲ豫想スレハナリ法律ハ其公正ヲ維持スル點ニ於テ更ニ綿密ナル注意ヲ加ヘ公證人ノ使用ス可キ役印及用紙ノ形式ヲ規定シ公正證書ノ作成ニハ必ス之ヲ用テ可キモノナルコトヲ命ジタリ

公證人ハ其作成ニ係ル書類ニ其作成若シタハ謄寫シタル旨ヲ認證スル爲メ署名シ且ツ役印ヲ押捺セサル可カラス此ノ如ク捺印ハ公證人ノ行爲アリタルコ

トヲ證明スル一ノ形式ナルヲ以テ一定不動タルコトヲ要シ一私人ニ於テモ印鑑ノ届出ヲ要スルカ故ニ公證人ニアリテハ殊ニ其届出ヲ必要トシ届出前ニアラテハ其職務ノ執行ヲ絕對ニ禁止シタリ從テ公證人規則ハ公證人ニ對シ役印ニ付キ二箇ノ義務ヲ負擔セシメタルモノト云フ可シ即チ其一ハ公證人某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作ラサル可カラス此役印ハ其作成ヲ公證人ニ命スルカ故ニ其作成費用ハ公證人ノ負擔タル可キコト論ヲ埃タス而シテ余輩ハ先キニ公證人ヲ以テ公吏ト爲シタルカ故ニ其役印モ亦從テ公印タルヲ失ハス之ヲ偽造變造スルトキハ明治二十三年法律第百號ノ規定ニ依リ官印ノ偽造變造ト同一ナル刑事上ノ制裁ヲ受テ可キモノトス而シテ第二ノ義務ハ其印鑑及其氏名ノ手記ヲ管轄地方裁判所及區裁判所ニ届出ツ可キコト是ナリ總テ公證人ノ署名捺印ハ公正證書ノ原本謄本等ノ成立ニ缺テ可カラサル形式ニシテ其欠缺ハ書類ノ公正力ヲ失效セシムル結果ヲ生スルモノナルカ故ニ管轄裁判所ハ公證制度ノ嚴正ヲ維持シ其偽造變造ヲ防禦スル爲メ豫メ公證人ノ真正ナル手記及印鑑ヲ徴シオクハ適當ナル注意ト言ハサル可カラス故ニ若シ印鑑ヲ提出セテ

ル前ニ於テ公正證書ヲ作成シ之ニ署名捺印シタルトキハ假令其書類ハ法定ノ形式ヲ具備シタリト雖モ其公證人ハ義務ヲ誠實ニ履行シタルモノト言フ可ラス隨テ此ノ如キ義務違背者カ作成シタルモノニハ十分ナル信認ヲ拂フコト能ハサルカ故ニカカル書類ハ公正證書タル效力ヲ生セサルモノト爲シタリハ公證人カ證書及謄本ヲ作成スルニ當リテハ一定ノ昇紙ヲ使用セサル可ラス之レ亦不法ノ加除ヲ防ク旨趣ニ出ツ即チ其用紙ニハ其地方裁判所管内公證人役場ナル文字ヲ示ササル可カラス公證人規則第十三條ニ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル昇紙ト規定シタルハ前述ノ意義ニ外ナラスシテ實際ニ於テハ全紙ノ中央即チ折目ニ當タル行内ニ前掲ノ文字ヲ掲載スルヲ普通トス公證人ハ公吏ナルカ故ニ自ラ其職務ヲ行フ可キヲ原則トス然レトモ已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサル場合アル可ク又ハ事務多忙ニシテ一身ヲ以テ一切ノ瑣事マツモ爲スコト能ハサル場合ナキヲ保セス法律ハ之ヲ豫想シテ時宜ニ適合シタル規定ヲ設ケタリ即チ前ノ場合ニアリテハ一日モ人民ノ委嘱ヲ空シウスル能ハサルカ故ニ事故アル公證人ハ近隣ノ公證人ニ其職務

執行ノ代理ヲ囑託シ且ツ其旨ヲ監督官廳タル管轄地方裁判所ニ届出テサル可カラス已ムヲ得サル事故トハ正當ナル理由ナル可キハ論ヲ俟タス例之疾病又ハ兵役ニ服スルカ如キヲ云ヒ代理ノ囑託ハ純然タル私法上ノ委任契約ニアラサルカ故ニ受囑公證人ハ正當ナル理由ナクシテ之ヲ拒絶スルコトヲ得サルモノトス而シテ後ノ場合ニアリテハ筆生ヲシテ書類ノ作成ニ當ラシムルコトヲ得然レトモ筆生トノ關係ハ前ノ場合ニ於ケル公證人間ノ關係ト全ク異レリ公證人タルニハ一定ノ資格及任命ヲ要スルヲ以テ筆生ハ公證人ノ職務ヲ行フ可キ資格ヲ有セス唯タ公證人ニ雇傭セラレ事實上ノ補助者タルニ過キス從テ其名ノ明示スル如ク公證人ノ口述ヲ筆記シ又ハ其命ニ因リ謄寫等ノ事ニ從テノミ嚴格ニ言ヘハ筆生ノ筆記シタルノミニテハ事實上唯タ單純ナル書面タルニ過キスシテ法律上何等ノ效力ヲモ生セス公證人カ之ニ法定ノ行爲ヲ加フルニ於テ始メテ公正ノ書類タルコトヲ得ルナリ故ニ筆生ハ公證人ノ代理人タルモノニ非サルナリ

第七章 公證人ノ除斥

公證人ハ民事ニ關スル公正證書ノ作成ヲ以テ其職務トシ人民ノ適法ナル囑託アレハ正當ナル理由ナクシテ其職務執行ヲ拒絕スルコトヲ得ス故ニ職務執行ノ囑託者ハ苟クモ平等關係ニ立ツ箇人ナルヲ以テ十分トシ其地位ノ如何ヲ論セサルナリ然レトモ一方ニ於テ公證人ノ作成シタル公正證書ハ民事上完全ナル證據力ヲ保有スルヲ以テ其職務ハ他ノ官吏ノ如ク誠實ニ之ヲ執行ス可キハ勿論箇人ノ權利義務ノ成立及其消長ニ頗ル重大ナル關係ヲ有シ之ヲ裁判官若シクハ裁判所書記ノ職務ニ比スルニ毫モ其間徑庭ナキカ故ニ特ニ或場合ニ於テハ其職務ノ公平無私ニ行ハル可キコトヲ保證スル爲メ公證人ヲシテ全然其執行ヲ爲スヲ許ササルカ又ハ特ニ或事件ニ付キ其執行ヲ爲スヲ得サラシメタリ之レ公證人ハ弘ク人民ノ囑託ニ應スルモノナリト雖モ或ハ囑託者トノ關係ヨリ或ハ囑託事件ノ性質ヨリ其職務執行ヲ偏頗ナラシムルノ虞アルヲ豫想シタルカ爲メナリ且テ其旨ニ對シテ其職務執行ヲ偏頗ナラシムルノ虞アルヲ豫想

報 載

○町村學校組合長ト組合財産ノ管理 町村學校組合長ハ組合財産殊ニ金銭ヲ管理スルノ權限ヲ有スルカ大審院ハ判決シテ曰ク明治二十三年法律第八十九號地方學事通則第一條第二項ニ町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ストアリテ町村制第十七條ニ依レハ町村ノ組合ヲ設クル協議ヲ爲ストキハ組合會議ノ組織事務ノ管理方法並ニ其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定スヘキモノニシテ管理者ノ如キモ事務管理ノ方法トシテ組合ノ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノニ屬ス而シテ本件ニ付テハ廣島縣蘆品郡國府村廣谷村岩谷村栗生村學校組合規約第十一條ニ本組合事務管理者ハ組合内各村長毎年交代ストアリテ被告カ犯罪ノ當時其管理者タリシ事實ハ原院カ被告ノ自認ニ依リ認定スル所ナリ而シテ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令第六十條ニ市町村長又ハ町村學校組合長ハ町村學校組合ニ屬スル市町村立小學校ヲ管理ストアリテ右組合規約第十一條ニ依リ管理者ト爲リタル被告ハ即チ學校組合長ナルカ故

ニ其組合ニ屬スル學校ノ會計ヲ管理シ從テ組合ノ金錢ヲ監守スルノ職責アルモノトスト(大審院明治三十七年(一)第二五四號監守監公文書及私文書偽造事部) 第三十三號令第三十四號令第六十號令

○營業割ト雜種稅割ト 縣稅雜種稅ニ村稅ヲ附加スルニ當リ必ス雜種稅割トシテ賦課スルコトヲ要スルカ或ハ其雜種稅ノ課稅物體ノ本質ニ從ヒテ其物體カ營業ニ關スルトキハ營業割トシテ賦課スルモ差支ナキモノナルカ行政裁判所ハ判決シテ曰ク縣稅ニ村稅ヲ附加シ得ヘキコトハ町村制第九十條ノ明示スル所ナリ而シテ本件ニ於テ天間林村會カ縣稅ナル雜種稅中ノ牛馬稅ニ村稅ヲ附加スルノ決議ヲ爲シタルコトハ同村會ノ決議ヲ經タル明治三十五年度歲入出豫算表中營業割ノ附記欄ニ營業稅雜種稅貳百參拾圓六錢九厘壹圓ニ付金壹圓ト記シ以テ雜種稅ニ附加スル稅率ヲ示セルニ依リ之ヲ知ルニ足レリ然レハ本件ノ村稅牛馬稅割ハ被告カ適法ナル村會ノ決議ニ從ヒ之ヲ原告ニ賦課シタルモノニシテ相當ノ處分ナリトス原告ハ右豫算表中雜種稅割ノ項ヲ設ケス且雜種稅割牛馬稅割ヲ營業割牛馬稅割トシテ本訴ノ村稅ヲ賦課シタルヲ以テ不

法ト爲スモ明治二十二年內務省令第二號市町村歲入出豫算表式ノ記載例ニ依レハ雜種稅割ハ營業割ニ包含セシムヘキモノニ付其雜種稅割ノ項ヲ設ケス且雜種稅割ヲ營業割トシテ賦課スルモ不法ナリト云フヲ得ト(三十九號判所明治三十七年一月二十九日第一號宣告三) 二十四號日本大審院民事部第一號判

○特許權ノ公示ト特許公法ト 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書圖面特許證ノ改訂特許ノ異動其他特許ニ關スル必要事項ヲ公示スヘキコトハ特許法第四十二條ニ明定スル所ナルカ若シ其特許公報ニ登載セル特許品ト同一若クハ類似ノ物ヲ其登載ノ事實ヲ知ラスシテ製造販賣シタルトキハ其製造者ハ同法第四十五條ニ依リ特許品ノ偽造者トシテ罰スヘキモノナルカ又其登載事實ヲ知ラサルハ過失ナリトシテ特許權者ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ大審院ハ後段ノ場合ニ付キ判決シテ曰ク特許公報ハ特許局カ特許法第四十二條ニ依リ之ヲ發行シテ特許品其他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘキモノナレハ特許公法ノ發行ハ即チ特許權ノ公示方法ニシテ之ニ掲載セラレタル特許品ハ何人ト雖モ之ヲ知了セザルモノト謂フコトヲ得ス然ルニ原判

決ヲ閱スルニ其前段ニ於テ上告人ノ特許品ト被上告人ノ製造販賣シタル煖爐ト酷似セルヲ認メ又被上告人ハ特許公法ノ發行ニ因リテ其製造煖爐ノ特許品タルコトヲ知リ得ヘキ地位ニアラコトヲ認メ乍ラ被上告人ハ明治三十五年二月下旬岐阜物産館ニ就キ特許公報ノ閱覽ヲ求メタル際偶々上告人ノ特許ヲ掲載セル同公報第四百十一號ヲ縣廳ヨリ同館ヘ同付セラレタリシ爲メ類似ノ煖爐ニ付キ特許ヲ受ケタルモノ見當ラサルヲ理由トシ被上告人ニ過失ノ責ムヘキモノナシト判斷シタルモ其當時上告人ノ特許品ヲ掲載セル公報第四百十一號ノ既ニ發行シアリタル以上ハ被上告人ハ進シテ之ヲ閱覽スヘキ注意ヲ加フヘキコト勿論ナルカ故ニ物産館ニ備付ケラレタルモノノミヲ閱覽シテ足ルヘキモノニ非ス云云ト(大審院明治三十七年三月十一日第二十二號民事部判決) ○五大學聯合懸賞大討論會 去月二十四日本大學ハ日本東京法學院早稻田明治ノ四大學ニ通牒シ各大學ノ選拔ニ係ル學生各校四名以下ヲ會シテ懸賞討論會ヲ開キ講師法學博士岡田朝太郎氏會長席ニ著キ當會ヲ統理セラレ聴衆無慮千餘名ニ達シ非常ノ盛會ナリキ

法學志林

第五十五號
四月十五日

每月一回十五日發行
定價一冊拾貳錢
郵稅一冊拾貳錢
十冊前金郵稅共
壹圓貳拾錢

●校友學生校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹錢十冊前金郵稅共壹圓

◎志林

○最近判例批評
○會社ノ自己ノ株式ノ取得ヲ論ス
○先取特權ニ準用スヘキ抵當權ノ規定(承前)

◎解疑

○帝國議會召集ノ勅諭ト議院法第一條及
○家族タル女子ノ夫ノ婚姻
○陸軍上ノ區別スル標準
○日露戰爭開始ノ時期
○大審院新判決例三十一件

◎判例

○擬律擬判試驗答案二件

◎答案

○記名國債ノ買入ニ關スル法律
○三山島砲臺問題
○秋山代議士ノ處決
○檢事總長ノ辭表
○腐敗セル露國ノ非常

◎雜報

○專門部員科ノ新設
○法政大學校友會東京支部春季總會
○校友懇親會
○校友茶話會
○懸賞討論會問題
○校友異動
○校友會

◎記事

○法政大學校友會春季總會
○校友懇親會
○校友茶話會
○懸賞討論會問題
○校友異動
○校友會

發行所

法政大學



明治三十七年四月三十日印刷
明治三十七年五月三日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者
東京市牛込區牛込北町十番地
秋原敬之

印刷者
東京市牛込區大塚町三番地
小宮山信好

印刷所
東京市芝區西ノ久保町十一番地
金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所
司法省
法政大學

(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十圓一日三圓五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行